

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関東学院大学
設置者名	学校法人 関東学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
国際文化学部	英語文化学科	夜・通信	90	58	96	154	13	
	比較文化学科	夜・通信		51	118	169	13	
	国際文化学科	夜・通信		57	104	161	13	
社会学部	現代社会学科	夜・通信		51	176	227	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		102	156	258	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		141	235	376	13	
法学部	法学科	夜・通信		94	150	244	13	
	地域創生学科	夜・通信		94	152	246	13	
理工学部	理工学科	夜・通信		125	579	704	13	
情報学部	情報学科	夜・通信		87	68	155	13	
建築・環境学部	建築・環境学科	夜・通信		92	363	455	13	
人間共生学部	コミュニケーション学科	夜・通信		77	248	325	13	
	共生デザイン学科	夜・通信		51	298	349	13	
栄養学部	管理栄養学科	夜・通信		51	129	180	13	
教育学部	こども発達学科	夜・通信		61	367	428	13	

看護学部	看護学科	夜・通信		22	92	114	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

※関東学院大学ホームページにて公表
<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/education/syllabus.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	なし
(困難である理由)	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関東学院大学
設置者名	学校法人 関東学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

WEB サイトで公表 https://www.kanto-gakuin.ac.jp/info/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職： 公益財団法人 理事	2025 年 6 月 の定期評議員会終結時 ～2029 年 6 月の定期評議員会終結 時まで	理事会の意思決定 プロセスにおいて、 学外からの多様な 意見や知識を積極 的に活用する。
非常勤	現職：会社員	2025 年 6 月 の定期評議員会終結時 ～2029 年 6 月の定期評議員会終結 時まで	理事会の意思決定 プロセスにおいて、 学外からの多様な 意見や知識を積極 的に活用する。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関東学院大学
設置者名	学校法人 関東学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・全ての授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、学習課題(予習・復習)、その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、大学ホームページで公表している。 ・授業計画は前年度の12月～1月に作成し、年度開始時に公表する。	
授業計画書の公表方法	授業計画(公表方法: 関東学院大学ホームページ(Webシラバス) (https://info.kanto-gakuin.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx))
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・学期中における理解度を把握するための小テスト及び学期末試験等を用いて、幅広い教養力や専門分野及び地域に関する知識・理解力を評価する。 ・レポートや論文・プレゼンテーションの成果に基づき、ルーブリックやポートフォリオ等の手法を用いて、建学の精神の実践・奉仕力、問題発見・思考力、倫理観、公平・公正な判断、協働力を評価する。 ・「学習と授業に関するアンケート」を実施し、各授業の到達度に関する設問の回答結果を通じて、学習成果の評価を図る。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・各授業科目の成績をGP(グレード・ポイント)に換算して、履修した科目1単位あたりの成績を数値で示したGPAを導入し、学生自らが学業成績の状況を的確に把握するため、学生個人に配付する成績表に記載している。GPAは、秀(S)を4、優(A)を3、良(B)を2、可(C)を1、不可(F)を0というGP(グレード・ポイント)に置き換え、算出している。 ・成績の分布状況は、全学の委員会等にて情報共有し、各学部の教育に活かしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	※関東学院大学ホームページにて公表 https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/wp-content/uploads/2026_disclosure_7-4.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・全ての学部において、学位授与方針(ディプロマポリシー)を定め、大学ホームページで公表している。また、学位授与方針に定められた1つ1つの能力に対し、学生がどのように身につけていったら良いか、授業内容・方法及び学習支援を含めた教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を定めると共に、学生が体系的に学修するために、学位授与方針と各授業科目の関係を示したカリキュラム・マップ(フローチャート型)を提示している。 ・卒業査定は、各学部教授会での審議事項となっており、組織での機関決定を行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学位授与方針(ディプロマポリシー)(公表方法: 関東学院大学ホームページ(https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/univ-3policy.html))

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関東学院大学
設置者名	学校法人 関東学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/self-inspection.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 関東学院大学
教育研究上の目的（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html ） （概要） 本学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、教育基本法に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、次世代の社会を他者とともに創り上げる教養と知識技術を有する人材を育成し、社会に貢献することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/univ-3policy.html ） ※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。 （概要） 関東学院大学は、教育研究上の目的の下に掲げる 4 つの能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 <知識・技能> 社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。 <寛容さ・判断力> 社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。 <思考力・表現力> 社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。 <主体性・協働性> 社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/univ-3policy.html ） （概要） 関東学院大学は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。 なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などの組織的な F D（ファカルティ・ディベロップメント）・S D（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断の努力をもってさらなる改善・充実に努める。 これを踏まえて、各学部の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を別に定める。

教育課程・教育内容

教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。

- 1 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、各学部が教育課程を編成するうえで必要に応じて、分野や目的に沿って区分する。

＜教養科目・総合科目＞

- ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。

＜キリスト教科目（自校史を含む）＞

- ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目・自校史科目を配置する（DP①）。

＜キャリア教育科目＞

- ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。

- 2 専門科目は、各学部の専門分野や目的に沿って編成する。

- 3 各教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③＜思考力・表現力【考える】＞

- ・ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④＜主体性・協働性【働きかける】＞

- ・社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
 - 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
 - 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
 - 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
 - 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する意欲と習慣を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の 3 つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/univ-3policy.html>）

（概要）

関東学院大学は、キリスト教に基づく建学の精神を端的に表した校訓「人になれ 奉仕せよ」を掲げ、「キリスト教の精神に基づき、生涯をかけて教養を培う人間形成に努め、人のため、社会のため、人類のために尽くすことを通して己の人格を磨く」という教育方針を長年にわたって継承してきた。

本学の教育方針に共感するとともに、幅広い教養と専門性の高い知識・技能を主体的に身に付け、他者ととともに次世代社会の創造と持続的発展へ貢献するための意欲と明確な目的意識を持ち、多様な背景を有する入学者を選抜するため、国内外問わず、世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、培われた確実な基礎学力、経験や活動を通じて身に付けた能力、学ぶ意欲や人間性などを多面的に評価する以下の入学者選抜制度を有する。

1. 一般選抜

一般選抜では、入学後に各学部教育に必要な総合的学力を有する入学者を選抜するため、高等学校までの教育の到達目標とされる「知識・技能」「思考力・判断力」等を問う個別学力試験に重点を置いて評価する。また、高い英語能力を有する入学者を評価するため、英語資格・検定試験の結果についても評価の対象とした入学者選抜制度を有する。

英語検定試験のスコアを評価する入学者選抜制度では、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 つの技能を身に付けた入学者を選抜するとともに、「知識・技能」「思考

力・判断力」等と検定試験に取り組んだ「主体性」を評価する。

2. 大学入学共通テスト利用選抜

大学入学共通テスト利用選抜は、一般選抜とは異なる素養を持つ受験生を受け入れるための選抜制度と位置づける。入学後に各学部教育に必要な総合的学力を有する入学者を選抜するとともに、高等学校までの教育の到達目標とされる「知識・技能」を中心に「思考力・判断力」等を問うため、大学入学共通テストで実施している幅広い教科・科目の筆記試験を利用し、その得点結果を評価する。

また、大学入学共通テストと、一般選抜における本学独自試験の試験結果の組み合わせによって、「知識・技能」「思考力・判断力」を評価する入学者選抜制度を有する。

3. 総合型選抜

総合型選抜では、本学での学修を強く希望する者を対象に、従来の教科・科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力やさまざまな活動や経験を通じて身に付けた能力や態度などを調査書、出願書類、レポートや小論文等の個別学力検査、プレゼンテーション、高等学校までに取得した資格・検定、面接等により、入学後に必要な総合的学力としての「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」に加え、「主体的に多様な人々と協働できる態度」を観点に多面的、総合的に評価する。

また、実際の社会における経験や異なる文化的背景を持つ国での学習歴、本学の教育方針への深い理解を基にして、本学での学修を希望する者を受け入れるため、社会人、帰国生、外国人留学生、卒業生子女、女性、外国ルーツ生徒などを対象に、書類選考、面接、小論文等を通じて、基礎学力、活動履歴、日本語能力、学修意欲、適性等を中心に、「思考力・判断力・表現力」「主体的に多様な人々と協働できる態度」を多面的、総合的に評価する。

4. 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、本学での学修を強く希望する者を対象に、進学実績や教育連携、高等学校における学習成果等を鑑み、本学が指定した高等学校、日本語学校、機関等の推薦に基づき、書類選考及び面接を通じて、高等学校までの学習で身に付けた基礎学力や活動履歴、学習意欲等を中心に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に多様な人々と協働できる態度」を多面的、総合的に評価する。

5. 給費生選抜

給費生選抜は、高等学校までの教育の到達目標とされる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に多様な人々と協働できる態度」を備えた入学者の才能を育成することを目的とする。各学部教育に必要な総合的学力を有し、学業に意欲的に取り組む入学者を選抜し、給費生として奨学金を支給する。

また、高い英語能力を有する入学者を評価するため、英語資格・検定試験の結果についても評価の対象とする入学者選抜制度を設ける。さらに、選抜試験の成績優秀者のうち、一定の学力水準を満たす者を入学者として受け入れる。

英語検定試験のスコアを評価する入学者選抜制度では、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4つの技能を身に付けた入学者を選抜するとともに、「知識・技能」「思考力・判断力」等と検定試験に取り組んだ「主体性」を評価する。

6. 編入学者選抜

編入学者選抜では、国内外の高等教育機関において一定期間在籍した者を対象に、書類選考、面接、小論文等を通じて、基礎学力、基礎的な専門分野の知識・技能、日本語能力、学修意欲、適性等を中心に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に多様な人々と協働できる態度」を多面的、総合的に評価する。

学部等名 国際文化学部
教育研究上の目的（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html ）
（概要） 国際文化学部は、大学の理念に基づき、文化の壁を越えた相互理解の実現を目指し、国内外で活躍できる人材を育成する。 英語文化学科は、文化・文学・言語に関する学びを通して国際共通語としての英語を深く理解することにより、高度な専門知識と豊かな言語感覚を養い、グローバル市民として高いコミュニケーション力をもって社会に貢献できる優れた人材を育成する。 比較文化学科は、日本を含むアジアや欧米諸国の言語・文化・歴史・生活について学び、多様性、複文化・複言語主義、異文化コミュニケーションの理解と実践ができる「社会人」を育成する。 国際文化学科は、大学の理念に基づき、グローバル化と多文化共生が進む社会において、多様な文化的・言語的背景を持つ人々と相互理解を図り、国際社会・地域社会の諸課題の解決に向けて主体的に行動する人材を育成する。 英語文化コースは、異なる文化や文化的背景を持つ人々に対する想像力や好奇心を啓培し、優れた国際感覚と多様な価値観に基づいて地域社会や国際社会における諸課題の解決に向けて主体的に自分の考えを発信できるグローバル・シティズンシップを醸成することを教育研究上の目的とする。国際共通語としての英語コミュニケーション能力を高めると同時に、英語圏の文化・文学、英語学などの人文学的な知識の修得を通して、英語と日本語双方の言語感覚と論理的思考力を身に付け、異文化間の双方向的な交流・活動をマネジメントできる確かな言語運用能力とグローバル社会の一員としてのシビックプライドを兼ね備えた人材を養成する。 グローバル歴史文化コースは、日本・アジア・欧米の歴史と文化（文学・芸術・思想・宗教）に関する教養とそれらを読み解く技術を身につけ、グローバル化する社会を俯瞰して捉える視点を養い、他者の視点を尊重しつつ自らの考えを表現する能力を修得させることを教育研究上の目的とする。それにより、社会の様々な課題に対して積極的に自らの考えを発信して、多様な背景を持つ他者と共感を築き、リーダーシップを持って行動できる人材を育成する。 多文化協働コースは、言語・教育による支援、国際協力・開発を基軸とした課題解決型学習と社会連携教育を通じて、多様な文化的背景をもつ人びとが住まう日本をはじめとする多文化共生社会において、人づくり、ネットワークづくり、コミュニティづくりに主体的に参加し、それを促進する人材を育成することを教育研究上の目的とする。言語・教育による支援と国際協力・開発についての専門的知識を背景にして、当事者の視点に立つ他者意識を有し、実践的なコミュニケーション能力、複合的なコーディネート能力を運用し、より良い多文化共生社会の実現に貢献する人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/intercultural-studies.html#policy） ※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。
（概要） 【国際文化学科】 国際文化学部国際文化学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に9項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 <知識・技能> 社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。 DP1 教養：グローバル化する社会を構成する多様な人々と対話、共感するための幅広い

	い教養を身につけている。
D P 2	リテラシー：多様な背景を持つ人々と相互に理解し合うために必要な、言語やデジタル・コミュニケーションに関するリテラシーを身につけている。
D P 3	専門知識・技能：グローバル化と多文化化によって生じる社会の変化を深く理解する際に不可欠な、学問的知識と方法を身につけている。
<寛容さ・判断力>	
社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。	
D P 4	多様性：多様な他者の社会的・文化的背景に対する想像力と、異なる意見に耳を傾ける寛容性・柔軟性を身につけている。
D P 5	公平・公正な判断力：自己を客体化する視点と、倫理観・公共性・批判的思考に裏づけられた、公平・公正な判断力を身につけている。
<思考力・表現力>	
社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。	
D P 6	思考力：グローバル化・多文化化が進む社会の課題解決に向けて、学問的知識・方法を適切に利用しながら、自ら立てた問いを解決する思考力を身につけている。
D P 7	表現力：他者の意見を尊重しつつ、自らの意見を客観的な根拠に基づいて主張し、適切な手段を用いて発信する表現力を身につけている。
<主体性・協働性>	
社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。	
D P 8	主体性：グローバル市民・多文化社会の一員にふさわしく、異文化間の相互理解を促進しようとする主体性・積極性と、社会課題の解決に必要とされる知識・教養・技能を生涯にわたり高めようとする意欲を身につけている。
D P 9	協働性：様々な背景をもつ他者と協働しながら、具体的な問題を解決へ導く実践的能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/intercultural-studies.html#policy ） （概要） 国際文化学部国際文化学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。 なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断の努力をもってさらなる改善・充実に努める。	
教育課程・教育内容	
1	教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。
2	共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。
なお、キリスト教、キャリアデザイン、初年次教育、英語の学習を必須とする。	
<キリスト教科目（自校史を含む）>	
・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①-1）。	

＜教養科目・総合科目＞

- ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①-1）。

＜キャリア教育科目＞

- ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④-9）。

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③-7）。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①-1）。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①-2）。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②-5）。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①-2）。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③-6）。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①-1）。

3 専門科目は、次の教育内容により、学部基盤科目のほか、各コースに4つの科目群を体系的に編成する。

〔学部基盤科目〕

- ・ 学部として養成する人材像を踏まえ、さまざまな文化に対する理解と社会への働きかけの基盤となる知識・技能、それらに基づいた思考力を、多様な講義科目をとおして身につけさせる（DP①-1・2・3、DP③-6）。
- ・ 「英語文化コース」・「グローバル歴史文化コース」・「多文化協働コース」、それぞれが重きを置く学びの内容と対応した、初学者向けの演習科目を学部の全学生が履修することとし、国際文化の学びに共通して必要となる、多様な背景をもつ他者への寛容性、公平・公正な判断力、自身の主張を表現する力を育てる（DP②-4・5、DP③-7）。

〔英語文化コース〕

【英語スキル科目】で確かな英語運用能力を養いつつ、【専門基礎講義科目】と【専門講義科目】で英語及び英語圏の文化に関する知識や理解を習得させたい。【専門演習科目】で社会的・文化的背景が異なる相手に対し自らの考えを発信するグローバル・シティ

ズンシップを育むカリキュラムである。

【英語スキル科目】

- ・ 1 年次から 4 年次まで段階的に配置し、英語の 4 つの技能（聞く・読む・書く・話す）にまたがる総合的な英語運用能力及び国際社会において協働するための英語コミュニケーション能力を育成する（DP①-2、DP③-7）。

【専門基礎講義科目】

- ・ 学部基盤科目における関連科目の上位基礎科目として、1・2 年次を中心に 4 年次まで段階的に配置し、専門的な学修につなげるために、英語及び英語圏の文化に関する基礎的な知識を身に付けさせる（DP①-3、②-4）。

【専門講義科目】

- ・ 3・4 年次を中心として配置し、専門基礎講義科目を通じて学んだ知識をもとに、英語及び英語圏の文化を多面的に理解して分析する力を養う（DP①-3、DP②-5）。
- ・ 専門基礎講義を通じて学んだ社会的・文化的背景が異なる相手や社会に対する深い理解と知識をもとに、自己を客体化して論理的に思考する能力を伸ばす（DP②-4、DP③-6）。

【専門演習科目】

- ・ 1 年次から 4 年次までバランス良く配置し、専門基礎講義科目及び専門講義科目を通じて深めた英語及び英語圏の文化に関する知識をもとに実践的な演習を行い、国際社会や地域社会、企業体など、社会的・文化的背景の異なる他者の意見や考えを受容しつつ、自らの意見や考えを適切な手段を用いて表現・発信するグローバル・シティズンシップを育む（DP④-8）。
- ・ ゼミナールを通じて、国際社会や地域社会、企業体などに遍在する英語及び英語圏の文化に関する課題を自ら発見し、適切な手法を用いて発信、解決する力を段階的に育成する（DP③-6・7）。
- ・ 卒業論文・卒業作品製作・プレゼンテーションなどに取り組むことを通じて、他者との共感を築きながら、自らの考えを言葉やその他の手段で表現する力を養う（DP④-9）。

【Global Awareness Program】

- ・ 高度な英語コミュニケーション能力、多文化世界に関する知識・理解、主体的に学習に取り組む意欲を有し、グローバル社会の諸課題の解決に向けて国内外で協働できるグローバル市民を育成するプログラムであり、内容言語統合型学習（CLIL 科目）を選択必修とし、英語運用能力を中心としたスキルを身につけると同時にグローバル市民としてのコンピテンシーの伸長を図る（DP②-5）。

〔グローバル歴史文化コース〕

主に【世界の歴史と現代系統科目】【文化教養系統科目】で多様な知識を、【グローバル教養系統科目】で知識を的確に利用する判断力を身につけさせたうえ、【演習・フィールドワーク系統科目】で思考力、課題解決力を養っていくカリキュラムである。

【世界の歴史と現代系統科目】

- ・ アジア・欧米を中心とした世界と日本の歴史と現代、文化と社会を相互に関連づけながら学ばせることで、多様な人々と共感するための幅広い教養を身につけさせる（DP①-2）。

- ・多様な他者の存在に気づき、自己を客体化したうえで、アジア・欧米を中心とする世界と日本の歴史と現在について深く考える力を伸ばす（DP③-6）。

【文化教養系統科目】

- ・アジア・欧米を中心とした世界と日本の文学・芸術・思想・宗教など人文学的な教養に触れさせることで、社会が変化するなかでも広く共有されている事柄を深く理解する方法を身につけさせる（DP①-3）。
- ・多様な他者の存在に気づき、自己を客体化したうえで、アジア・欧米を中心とする世界と日本の文学・芸術・思想・宗教などの人文学的な知が受け継がれてきた意味について深く考える力を伸ばす（DP③-6）。

【グローバル教養系統科目】

- ・地球環境・法理念・経済などグローバルな視座が求められる分野の基礎知識を学ばせることで、多様な人々と対話するための教養を身につけさせる（DP①-1）。
- ・多様な文化の比較や社会科学的な手法を通じて、批判的に思考する方法を学ばせることで、自己を客体化し、公平・公正な観点から日本の文化・社会を見直す力を養う（DP②-5）。

【演習・フィールドワーク系統科目】

- ・文字・画像などの資料を熟覧することによって人文学的な知を深く読み解く技術を磨かせるとともに、さまざまな文化の様相の実見を行うことで、多様な他者の文化的・社会的な背景を具体的に想像していく力を育てる（DP②-4）。
- ・ゼミナールを通じて、多様な文化を背景に持つ他者への共感・尊重の気持ちを育みつつ、グローバル化・多文化化が進む社会の課題解決にむけて、自らの考えを練り上げて発信する表現力を培う（DP③-7）。
- ・グローバル化する社会において多様な歴史・文化の様相を発信する性質を持つ職業への理解を深めさせ、生涯にわたって多様な背景を持った他者への理解を深めていく責任感・使命感を醸成させる（DP④-8）。
- ・卒業論文・卒業作品製作・プレゼンテーションなどに取り組むことを通じて、他者との共感を築きながら、自らの考えを言葉やその他の手段で表現する力を養う（DP④-9）。

〔多文化協働コース〕

【Coexistence（共生）科目】と【Communication（交流）科目】で身につけた知識を、演習科目である【Collaboration（協働）科目】において体得し、【Co-creation（共創）科目】のプロジェクト科目で実践・探究するカリキュラムである。

【Coexistence（共生）科目】

- ・多文化共生社会をめぐる言語、教育、国際協力・開発の基礎的な知識と概念について、理論とともに国内外の事例を学び、幅広い教養を身につけさせる（DP①-1）。
- ・自己を含む多様な文化への深い理解をはぐくみ、他者との協働に必要な傾聴力および対話力を育成する（DP①-2・3）。

【Communication（交流）科目】

- ・多文化共生が進む地域社会及び国際社会のさまざまな課題を学ぶことで、倫理観・批判的思考に裏付けられた体系的な知識を定着させる（DP①-1）。
- ・講義と演習の往還を通じて 公平・公正な情報収集のためのスキルを実践し、理論を客観性をもって活用する力を育む（DP①-2、DP②-5）。
- ・コミュニケーション能力を高めるとともに、対話や異文化理解を重視し、他者との効果的な交流を行い、社会的つながりについて深く考える力を伸ばす（DP②

-4)。

【Collaboration（協働）科目】

- ・習得した知識および経験をもとに、他者との議論や共同作業を主に行う演習科目を通して、自ら問いをたてるとともに、その問いを解決するための主張を組み立てる力を育む（DP③-6）。
- ・他者の意見を尊重しつつ、自らの意見を客観的な根拠に基づいて主張し、適切な手段を用いて相互理解を実践するコミュニケーション能力を育む（DP③-7）。

【Co-creation（共創）科目】

- ・プロジェクト科目（Co-Project 系列）を通じて、国内外の多文化協働による社会連携の取り組みに参画することを促し、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲を養うとともに、実践的なコミュニケーション能力及び複合的なコーディネート能力を育成する（DP④-8）。
- ・外国につながる人々との交流を通して、地域社会及び国際社会の課題を解決できる能力を育成する（DP④-9）。
- ・卒業論文・卒業作品製作・プレゼンテーションなどに取り組むことを通じて、他者との共感を築きながら、自らの考えを言葉やその他の手段で表現できるようにする（DP④-9）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。
DP①＜知識・技能【知る】＞
 - ・社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞
 - ・フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。DP③＜思考力・表現力【考える】＞
 - ・ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。DP④＜主体性・協働性【働きかける】＞
 - ・社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。

- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。
- 7 語学教育科目や外国語で行う授業を通じて、グローバル化と多文化化が進む社会で多様な背景を持つ人々との相互理解を深め、協働を行うための知識と技能を培う。
- 8 国内外のフィールドを実際に訪れて実践的に学ぶ授業を通じて、文献研究や調査研究といった人文科学の研究手法を活用し、多文化共生社会の課題を解決できる創造的な思考力と表現力を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/intercultural-studies.html#policy>）

（概要）

国際文化学部は、多文化共生社会の実現を目指して、グローバル化する社会の問題に関心を持ち、深い教養と課題解決のための技能を身につけようとする意欲のある学生を求める。そのため、学部・学科及びコースごとの教育研究上の目的（養成する人材像）・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連性を踏まえるとともに、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、各コースの入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を次のように定める。

<英語文化コース>

求める学生像

国際文化学部国際文化学科英語文化コースは、国際共通語としての英語を用いて、文化的背景が異なる人々と相互理解を図り、国内外で協働できるグローバル市民を育成することを目的としている。そこで、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、意欲を備えた学生を求める。

1. 国際社会で起きていることに関する基礎的な知識・理解
2. 他者の文化的背景を尊重しながら対話を行うための基礎的な英語コミュニケーション能力
3. 英語圏の文化・文学・言語などの諸問題に関心を持ち、主体的に取り組む姿勢

入学者選抜において評価する点

英語文化コースでは、協働的なゼミナールでの学びを基盤として、英語圏の文化・文学・言語に関する課題を自ら発見し探究する卒業研究及び卒業論文を学びの集大成と位置付けている。そこで、以下の観点に基づいて入学者を選抜する。

1. 高等学校で履修した教科のうち特に英語の基礎的な知識・理解
2. 英語もしくは日本語で自らの考えや意見を述べることができる基礎的な表現技能
3. 国際社会において他者と協働しながら主体的に行動しようとする意欲
4. 国際社会に遍在する課題に対する問題意識、他者との活動とそれによる成果、探究学習における情報の収集や分析、活動における学びや気づき

入学前学習として求めること

英語文化コースの授業では、英語圏の文化・文学・言語を題材として、英語及び日本語での対話を通じて協働的に学ぶ。そこで、入学前学習として、以下を求める。

1. 日常的・継続的な英語学習および英語圏文化・文学・言語を意識する習慣を身に付けること
2. 日々ニュースを視聴したり、読書をしたりして、国際社会に関する情報を幅広く収集するとともに、国際社会と日本との関わりについて問題意識を持つこと
3. 高等学校の授業や課外活動に主体的に取り組み、他者や社会との関わりを多く体験し、それによる学びや気づきを自己で総括評価すること

＜グローバル歴史文化コース＞

求める学生像

国際文化学部国際文化学科グローバル歴史文化コースでは、日本・アジア・欧米の歴史と文化について学び、グローバル化する社会を俯瞰して捉える視点を養い、他者の視点を尊重しつつ自らの考えを表現する能力を修得させることを目的としている。よって、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・理解・技能、意欲を備えた学生を求める。

- 1 国際社会やそれと密接に関係する日本の事象に関する基礎的な知識・理解
- 2 他者の文化的背景を尊重しながら対話する、基礎的なコミュニケーション能力
- 3 アジア・欧米を中心とする世界と日本の歴史・文化・社会などの諸問題に関心を持ち、主体的に関わろうとする姿勢。

入学者選抜において評価する点

グローバル歴史文化コースでは、学生が自らの考えを言葉やそのほかの手段で表現する卒業研究及び卒業論文を学びの集大成と位置づけており、そのテーマはゼミナールでの議論・対話を通じて学生自らが見出していくものである。よって、入学者選抜にあたっては以下の観点を重視する。

- 1 高等学校等で履修した教科のうち、特に国語、英語、社会の基礎的な知識・理解
- 2 書かれたり話されたりした内容の要点を理解した上で、自らの考えや意見を述べる基礎的な表現技能
- 3 グローバル化する社会において他者と協働しながら主体的に行動しようとする意欲、また高校時代に行動してきた結果としての実績を的確に説明する表現力
- 4 日本語を母語としない場合、十分な日本語コミュニケーション能力を有すること

入学前学習として求めること

グローバル歴史文化コースの授業では、アジア・欧米を中心とする世界と日本の歴史と現在、文化教養の諸分野（文学・芸術・哲学・宗教）を学ぶことになる。よって、入学前学習として以下の点を求める。

- 1 アジアや欧米諸国の言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語）に関心を持つこと
- 2 日本を含む世界各地の宗教・文化・歴史・生活を積極的に学ぶよう努めること
- 3 自らが生活する地域社会に関心を持ち、社会貢献活動に自発的に参加すること
- 4 高等学校等の授業や課外活動に主体的に取り組むことで、課題を自ら発見し、適切な方法を用いて解決する機会を持つこと

＜多文化協働コース＞

求める学生像

国際文化学部国際文化学科多文化協働コースでは、言語・教育による支援、国際協力・開発を基軸とした課題解決型学習と社会連携教育を通じて、多様な文化的背景をもつ人びとが住まう日本をはじめとする多文化共生社会において、人づくり、ネットワークづくり、コミュニティづくりに主体的に参画し、それを促進するための能力を養うことを目的としている。よって、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・理解、技能、意欲を備えた学生を求める。

1. 地域社会や国際社会で起きている事象や課題に関する基礎的な知識と理解力
2. 他者の社会的・文化的背景を尊重しながらコミュニケーションがとれる、傾聴力と対話力
3. 多文化共生が進む地域社会と国際社会において他者と協働しつつ社会課題の解決に主体的に取り組む姿勢
4. 本コースで習得した専門知識と技能を基に、自らの属するコミュニティの一員としての自信と自覚をもって、社会における生涯学習を推進しようとする持続的意志

入学者選抜において評価する点

多文化協働コースでは、学生が地域社会と国際社会の課題解決について自らの考えを表現する卒業研究および卒業論文を学びの集大成と位置づけており、そのテーマは Co-Project での議論・探究、地域社会及び国際社会の他者との対話・交流を通じて学生自らが見出していくものである。よって、入学者選抜にあたっては以下の観点を重視する。

1. 高等学校などの教育機関で履修した教科のうち、人文学の基礎となる国語、社会及び外国語の基礎学力
2. 論点を整理した上で、自らの考えや意見を述べることのできる基礎的な思考と表現力
3. 地域社会と国際社会において公平・公正な視座を持ち、他者と協働しながら探究する意欲、また高校時代に協働・探究してきた結果としての実績を的確に説明する表現力

入学前学習として求めること

多文化協働コースの授業では、言語・教育による支援、国際協力・開発を基軸とした課題解決型学習と社会連携教育に取り組む。よって、入学前学習として以下の点を求める。

1. 日常的かつ継続的に英語をはじめとする外国語を学習すること
2. 地域社会や国際社会の動向に関心をもち、図書、新聞、インターネットなどの各メディアから、多角的な情報を入手し知識を得ること
3. 自身と地域のつながりに関心をもち、社会貢献活動に自発的に参加すること
4. 高等学校や地域社会での活動において、身近な異文化の存在に意識を向け、意義と課題を自ら考え発見すること

学部等名 社会学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html>)

(概要) 社会学部現代社会学科は、大学の理念に基づき、社会学と社会福祉学の分野の教育研究活動の発展と普及を通して社会に寄与することを教育研究上の目的とし、社会学と社会福祉学を両輪にした学びを通して、優れた人権感覚と公共心を育み、人と社会をめぐる諸問題に公正な解決をもたらす構想力と実践力を持ち、多文化共生社会の形成と社会福祉の実現に貢献できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/sociology.html#policy ） ※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。
(概要) 【現代社会学科】 社会学部現代社会学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に4項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 <知識・技能> 社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。 DP1 知識と理解・専門性・解決の技能：社会学及び社会福祉学の知識を身につけ、理解を深め、問題の発見および専門性を基盤とした解決を思考する力と技能を有している。 <寛容さ・判断力> 社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。 DP2 自己の相対化・人権感覚・公正な判断：他者がもつ多様な社会的・文化的背景を理解し、自己を相対化したうえで、鋭敏な人権感覚と公平・公正の精神をもって、事象を判断する力を身につけている。 <思考力・表現力> 社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。 DP3 分析力・熟考する力・表現力：社会学及び社会福祉学の知識と技能をもとに社会的事象を分析し、他者や他分野に開かれた姿勢で粘り強く考え続け、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信することができる。 <主体性・協働性> 社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。 DP4 市民性・協働力・応用力：市民社会の一員としての自覚のもと、多様性に開かれた公正な社会に向けて、他者と協働しながら社会学及び社会福祉学の知識と技能を応用していく主体性を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/sociology.html#policy ）
(概要) 社会学部現代社会学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。 なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、

常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断の努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

- 1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。
- 2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、キリスト教、キャリアデザイン、初年次教育、英語の学習を必須とする。
 - ＜キリスト教科目（自校史を含む）＞
 - ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。
 - ＜教養科目・総合科目＞
 - ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。
 - ＜キャリア教育科目＞
 - ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。
 - ＜初年次教育科目＞
 - ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。
 - ＜地域志向科目＞
 - ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。
 - ＜語学教育科目＞
 - ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。
 - ＜海外語学研修科目＞
 - ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。
 - ＜情報教育科目＞
 - ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。
 - ＜データサイエンス科目＞
 - ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。
 - ＜保健体育科目＞
 - ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。
- 3 専門科目は、学士（社会学）又は学士（社会福祉学）の学位に基づき、次のように基幹科目、専門基礎科目、専門展開科目、演習科目を段階的に編成し、社会学と社会福祉学の知見を活かして「社会構創力」（※）を涵養する。
 - ※ 多文化共生の持続型成熟社会の構築に向けて、構想力を発揮し、これを創造的に実践する力を意味する。

【共通】

- ＜基幹科目＞
 - ・ 基幹科目を通じて、幅広い教養と、社会学・社会福祉学に関する知識と理解、解決のための技能を身につける（DP①）。これらにより、社会学・社会福祉学を専門的

に学ぶための土台を築き、現状分析から課題を発見する社会調査能力を培い、専門展開科目の基礎を培う。

【学士（社会学）】

＜専門基礎科目＞

- ・ 専門基礎科目を通じて、より専門的な社会学に関する知識を深め、解決しようとする意欲を深めるとともに、自己を相対化することで対象を客観視する力や、人権感覚、公正な判断の獲得に必要な素養を身につける（DP②）。これらにより、「社会構創力」に必要な社会認識力の源となる専門的な知識を増やし、専門展開科目の基礎を培う。

＜専門展開科目＞

- ・ 専門科目群のうち講義科目では、基幹科目・専門基礎科目において学修した知識や技能を、情報メディア、ジェンダー、環境等、さまざまな社会問題に応用することに加え、NPO・地域諸組織そして地域社会の形成に向けての計画や政策にまで具体的に展開させることを図る。また、これらの学修を通じて、自己の相対化・人権感覚・公正な判断を養い、「社会構想力」の柱となる構想力や創造性を培う（DP②）。

＜演習科目＞

- ・ ゼミナール等の演習科目を通じて確かなデータを用いて社会を認識する力に加え、課題解決のためのコミュニケーション能力を培い、思考力・表現力、及び主体性・協調性を伸ばす（DP③④）。また、大学での学びの集大成である卒業研究（ゼミ論、卒論等）を配置することで、これまでに修得した知識と技能そして実践力を総括し、「社会構創力」の完成を目指す。

【学士（社会福祉学）】

＜専門基礎科目＞

- ・ 専門基礎科目を通じて、より専門的な社会福祉学に関する知識と理解・専門性・解決の技能に加え、自己の相対化や人権感覚、公正な判断の獲得に必要な素養を身につける（DP②）、これらにより、社会福祉各分野における主要サービスを系統的に学ぶための基礎、各種社会福祉サービス、相談援助の理論と方法、地域福祉の基盤整備・開発に関する知識と方法を身に付け、専門展開科目の基礎を培う。

＜専門展開科目＞

- ・ 社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要な科目を中心に、高齢期における生活問題、子ども虐待防止論、あるいは他者の社会的・文化的背景を理解する科目を段階的に編成する。これらの学修の中で、講義科目では、自己の相対化・人権感覚・公正な判断を養う（DP②）。また、ソーシャルワーカーなど実践の場で求められる思考力・表現力を養う（DP③）。

＜演習科目＞

- ・ ゼミナール及び卒業論文を通じて、主として社会福祉学の知識をもとに問題の発見から解決への道筋を立てて議論を行う能力を形成し、社会福祉総合演習により、社会福祉士となるために必要な専門知識の定着を図り、思考力・表現力、及び主体性・協調性を伸ばす（DP③④）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞

・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。 DP③<思考力・表現力【考える】> ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。 DP④<主体性・協働性【働きかける】> ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。 学習成果の評価 学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。 なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。	入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/sociology.html#policy） （概要） 社会学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。 求める学生像 社会学部では、社会学と社会福祉学を両輪にした学びを提供している。その目的は、個人を尊重する社会の実現に貢献する人材の育成にある。多様性に関われ、一人一人の可能性を発揮できる公正な社会を構想し、実現するために、学生には次のような意欲と態度を備えていることを期待する。 （1）社会に関心をもち、情報の収集・分析に取り組み続ける意欲 （2）社会的・文化的背景が異なる他者が存在することを理解し、他者を尊重する姿勢 （3）倫理観と公平・公正の精神をもって、問題に向き合おうとする態度 （4）社会の一員としての役割を主体的に果たそうとする意欲
--	---

入学者選抜において評価する点

社会学部では、入学者選抜において次のような点を評価する。

- (1) 社会の諸問題に関心をもち、柔軟かつ多面的に捉えようとしている
- (2) 異なる価値観をもつ様々な人々と積極的に協働しようとしている
- (3) 倫理観と公平・公正の精神に基づき、問題の解決をめざそうとしている
- (4) 社会の諸問題に対し、主体的に考え取り組もうとしている

入学前学習として求めること

- (1) 基礎学力として、高等学校等で履修する教科・科目の内容を理解し、これらの知識をバランスよく有すること
- (2) 様々な社会現象や社会問題に関心をもち、メディア（ニュースや書籍など）を通して視野を広げること
- (3) ボランティア活動や異文化体験、サークル活動など、様々な人々と交流し地域社会と関わる活動に参加すること

学部等名 経済学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html>）

（概要）

経済学部経済学科は、大学の理念に基づき、正義と真理を愛し、個々人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた、人間性豊かで良識のある社会に有為な人材を育成する。

現実の経済社会の仕組みを理解し、迅速な情報処理分析能力や的確な判断力を備えた、国際社会に通じる人材を育成する。

豊かな人間性を涵養できるように広く深い教養教育を重視し、また国際化等の進展に対応するため、外国語能力の向上を図ることも目指している。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/economics.html#policy>）

※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。

（概要）

【経済学科】

経済学部経済学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に14項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

<知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

D P 1 幅広い教養：自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。

D P 2 専門基礎知識に関する知識・理解：経済学の基礎的な内容、方法、及び経済の仕組みについて理解している。

D P 3 専門的領域に関する知識・理解：選択したコースごとの専門知識及び方法について理解している。

D P 4 地域に関する知識・理解：本学が立地する「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。

<寛容さ・判断力>

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断す

る力を身につけている。

DP5 国際協働力：国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。

DP6 多文化での共生：他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。

DP7 倫理観、公平・公正な判断：倫理観と公平・公正の精神を持って、事象を判断することができる。

<思考力・表現力>

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

DP8 問題発見・解決力：経済学と隣接学問分野の基礎及び専門領域に関する知識等を活用することにより、問題を発見し、それを解決するための方法を適切に選択することができる。

DP9 専門的思考・分析：経済学と隣接学問分野の専門知識・方法を活用し、諸現象を論理的に分析し、客観的な見解を導くことができる。

DP10 傾聴と発信：経済的諸問題についての分析や考察について、他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を論理的に説明し、発信することができる。

<主体性・協働性>

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

DP11 生涯学び続ける意欲：経済学的思考を基礎に学際的視野をもって、生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を有している。

DP12 社会参加への主体性：経済学の知と幅広い教養をもって、社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を有している。

DP13 チームワーク、他社との協働：経済学の豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。

DP14 建学の精神の実践、奉仕動機：問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/economics.html#policy>）

（概要）

経済学部経済学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断の努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。

2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、教育課程を編成するうえで必要に応じて、分野や目的に沿って区分する。なお、キャリアデザイン、初年次教育、健康スポーツ、英語の学習を必須とする。

<キリスト教科目（自校史を含む）>

・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP④）。

<教養科目・総合科目>

・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①、DP②、DP③、DP④）。

＜キャリア教育科目＞

- ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP②）。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。

3 専門科目は、次のように3つのコースを編成する。

専門分野コース

【産業・金融コース】

- ・ 企業の生産活動と市場に関する総合的な経済学の専門知識と分析の能力をもつ人材を育成する（DP①-3、DP③-8、DP③-9）。

【公共経済コース】

- ・ 公共部門の役割を学び、公務員などに求められる政策立案能力をもつ人材を育成する（DP①-3、DP②-6、DP③-8、DP③-9、DP④-12）。

【国際経済コース】

- ・ 国際的な視野を持ち、世界で活躍できる人材を育成する（DP①-3、DP②-5、DP③-8、DP③-9）。

各コースは、法学科目、経済学科目、専門ゼミナールなどで体系的に編成する。

＜法学科目＞

- ・ 経済学に関連する法学を身に付ける（DP①-2、DP②-6）。

＜経済学科目＞

- ・ 経済学と隣接学問分野に関する専門的な知識と方法論を身に付ける（DP①-1、DP①-2、DP①-3、DP②-6、DP②-7、DP③-8、DP③-9、DP④-13）。
- ・ 基礎的なコース共通科目（※）と専門的な各コース科目により編成する。

※ ここでのコース共通科目とは3コースでの共通科目

＜専門ゼミナール＞

- ・ 2年次（第4セメスター）より始まる専門ゼミナールを通じて、専門的知識と方法論を活用し、社会的諸問題を論理的・客観的に分析できる能力を段階的に培う（DP

③-8)。

4. 教育課程の体系的性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①<知識・技能【知る】>

- ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②<寛容さ・判断力【みる】>

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③<思考力・表現力【考える】>

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④<主体性・協働性【働きかける】>

- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。

- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/economics.html#policy>)

(概要) 経済学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。 求める学生像 経済学部経済学科は、正義と真理を愛し、個々人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた、人間性豊かで良識のある、社会に有益な人材の育成と、現実の経済社会の仕組みを理解し、迅速な情報処理分析能力や的確な判断力を備えた、国際社会に通じる人材を育成することを目的としている。この目的に共感し、経済社会の諸問題に関心を持ち、さまざまな課題の解決に貢献しようとする意欲を持った学生を求める。 入学者選抜において評価する点 経済学部経済学科は、高等学校までの主要科目あるいは専門科目における基礎学力を有しているかどうか（「知識・理解」「技能」）を基本に置きつつ、面接等を課す選抜試験においては、経済学に対する学修意欲、論理的思考力、コミュニケーション能力等（「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」）についても評価の対象に加え、学部の教育に必要な総合的学力を総合的に評価する。 入学前学習として求めること 経済学部経済学科では、入学者に対し、大学で経済学を学ぼうとする際に必要となる基礎学力を身に付けていることを求める。また、経済に関する事象を扱うため、書籍・新聞・雑誌・インターネット等から経済に関する話題に関心を持つことを望む。さらには、物事を論理的かつ柔軟に捉える思考力と自らの考えを的確に表現するコミュニケーション能力を身に付けることを求める。

学部等名 経営学部 教育研究上の目的（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html ） (概要) 経営学部経営学科は、大学の理念に基づき、主体性・実践性・協調性を重視し、経営学を中心とした専門的な学術の理論と応用、さらに社会的実践の基礎を教授することにより、企業や組織の運営・管理に必要な知識とスキルを有し、ビジネス社会において活躍できる人材を育成する。 卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/business-administration.html#policy ） ※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。 (概要) 【経営学科】 経営学部経営学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に14項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 <知識・技能> 社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々に対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身に付けている。 DP1 教養：自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身に付けている。 DP2 基礎知識力：経営学の基礎的な内容、方法、及び組織運営の仕組みについて理解

している。 DP3 専門知識力：選択したコースごとの専門知識及び方法について理解している。 DP4 地域理解：本学が立地する「神奈川」をはじめとする地域の歴史・文化・経済等の特性を理解している。 DP5 国際コミュニケーション力：国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。
<寛容さ・判断力> 社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。 DP6 寛容性：他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。 DP7 公正性：倫理観と公平・公正の精神を持って、事象を判断することができる。
<思考力・表現力> 社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。 DP8 思考力：経営学と隣接学問分野の知識および K-biz のフレームワークを活用することにより、社会課題を発見し、それを解決するための方法を適切に選択することができる。 DP9 分析力：経営学の専門知識と K-biz のフレームワークを活用し、社会課題を論理的に分析し、客観的な見解を導くことができる。 DP10 表現力：現実にかかる経営的諸問題についての分析や考察について、他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を論理的に説明し、発信することができる。
<主体性・協働性> 社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。 DP11 学習意欲：経営学的思考を基礎に学際的視野をもって、生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を有している。 DP12 主体性：K-biz に基づく実践的な経営学の知と幅広い教養をもって、社会の一員としての役割を果たそうとする主体性を有している。 DP13 協働力：K-biz に基づく経営学の知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。 DP14 実践力：社会課題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/business-administration.html#policy）
（概要） 経営学部経営学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。 なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。 教育課程・教育内容 1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。 2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、

キリスト教、キャリアデザイン、初年次教育、英語の学習を必須とする。 ＜キリスト教科目（自校史を含む）＞ - 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。 ＜教養科目・総合科目＞ - 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。 ＜キャリア教育科目＞ - 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。 ＜初年次教育科目＞ - 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。 ＜地域志向科目＞ - 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。 ＜語学教育科目＞ - グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。 ＜海外語学研修科目＞ - 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。 ＜情報教育科目＞ - 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。 ＜データサイエンス科目＞ - 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。 ＜保健体育科目＞ - 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。 3 専門科目は、企業と連携した実践的な学びを展開し、ビジネス社会において活躍できる能力を育成するという観点から、1年次において「K-biz ベーシック 1」、「K-biz ベーシック 2」の学習を必須とする。また、基本科目から応用科目、コース科目と段階的に編成し、実践系科目及び会計人材育成プログラム科目を設置するとともに、専門ゼミナールにおいて専門学習の総まとめを行う。さらに、経営学に関連する経済学・法学科目も併せて学習する。 ＜基本科目＞ K-biz ベーシック及び経営学を構成する四分野である経営、商学、会計、経営情報の基礎的知識を身につける（DP①-2、DP④-13）。 ＜応用科目＞ 経営学を構成する四分野である経営、商学、会計、経営情報の発展的知識を身につける（DP①-3、DP③-9）。 ＜コース科目＞ 次の2つのコースを編成し、各コースの専門知識や技術等を身につける。 【ビジネスリーダーシップコース】 事業活動を長期安定的に継続しさらなる成長を目指すための経営戦略を企画・創造する知識・技術を修得し、良き企業人として必要なリーダーシップ力、意思決定力、	
---	--

判断力を養う（DP③-9）。

【流通マーケティングコース】

消費者ニーズの捕捉、商品・サービスの企画・提供から消費者への訴求、効率的な流通ネットワークの構築、情報技術の活用に至るまで、流通・マーケティングや観光・ホスピタリティのマネジメントに関する総合的な知識を修得し、流通・マーケティング、観光・ホスピタリティの分野でリーダーシップを発揮できる能力を養う（DP③-9）。

＜実践系科目＞

ビジネスの現場の実際を知るとともに、ビジネスの現場で求められるスキルを身につける（DP②-7、DP③-8,9,10、DP④-11,13,14）。

＜会計人材育成プログラム科目＞

税理士、公認会計士等の職業会計人を目指す学生を主な対象とした科目群であり、税務・会計の専門知識を身につける（DP③-9）（DP④-11）。

＜専門ゼミナール＞

2年次（第4セメスター）より始まる専門ゼミナールを通じて、専門的知識と方法論を活用し、社会的諸問題を論理的・客観的に分析できる能力を段階的に培う（DP①-3）（DP③-8,9）。

＜経済学・法学科目＞

経営学に連関する経済学や法学の知識を身につける（DP①-2）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や事例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③＜思考力・表現力【考える】＞

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④＜主体性・協働性【働きかける】＞

- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスラーニング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。

- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS（Learning Management System）を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/business-administration.html#policy>）

（概要）

経営学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。

求める学生像

経営学は、複数の人が協働してある目的を達成しようとする企業や組織を対象として、その運営・管理に必要な実践的な知識とスキルを学修する学問である。経営学部経営学科では、高等学校までの基礎学力を基に、経営学に対し強い興味・関心を持ち、新しいものを生み出そうあるいは何かを変えようとする意欲に満ちた、主体性・協調性を備えた学生を求める。

入学者選抜において評価する点

経営学部経営学科では、高等学校までの主要科目あるいは専門科目における基礎学力を有しているかどうか（「知識・技能」）を基本に置きつつ、面接等を課す選抜試験においては、経営学に対する学修意欲、論理的思考力、コミュニケーション能力等（「寛容さ・判断力」「思考力・表現力」「主体性・協働性」）についても評価の対象に加え、学力を総合的に評価する。

入学前学習として求めること

経営学部経営学科では、入学者に対し、大学で経営学を学ぼうとする際に必要となる基礎学力を身に付けていることを求める。また、ビジネスに関する事象を扱うため、書籍・新聞・雑誌・インターネット等からビジネスに関する話題に関心を持つことを望む。さらには、物事を論理的かつ柔軟に捉える思考力と自らの考えを的確に表現するコミュニケーション能力を身に付けることを求める。

学部等名 法学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html>）

(概要) 法学部は、大学の理念に基づき、法的な視点に立って、現代社会で発生する様々な課題に対し、強い倫理観を持って適切に対処できる能力を持った良識ある社会人・職業人として社会で活躍できる人材を育成する。 法学科は、国の内外で発生する諸問題の解決に必要な法律知識を涵養し、問題の解決に当たることができる能力を身に付けた人材を育成する。 地域創生学科は、安全で安心して暮らすことのできる地域社会の創造と魅力ある地域づくりを、自助・共助・公助の精神のもとで担うことのできる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/law.html#policy ） ※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。
(概要) 【法学科】 法学部法学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に8項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 <知識・技能> 社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。 D P 1 知識：社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解することができる。 D P 2 教養・専門性：社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養及び法学に関する基本的な専門知識と技能を身につけている。 <寛容さ・判断力> 社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。 D P 3 寛容性：他者の社会的・文化的背景を理解することができる。 D P 4 判断力：倫理観と公平・公正の精神をもって、事象を法学の視点から考察し、判断することができる。 <思考力・表現力> 社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。 D P 5 思考力：社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するため、法的に検討し道筋を立てることができる。 D P 6 表現力：他者の意見を尊重したうえで自らの意見を明確に表現する力を身につけている。 <主体性・協働性> 社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。 D P 7 協働性：法的な知識や視点のもとに、多様な背景をもった他者を尊重し協働することができる。 D P 8 主体性：課題解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。 【地域創生学科】 法学部地域創生学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に8項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 <知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

DP1 知識：社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解することができる。

DP2 教養・専門性：社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養及び法学と地域創生に関する基本的な専門知識と技能を身につけている。

<寛容さ・判断力>

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

DP3 寛容性：他者の社会的・文化的背景を理解することができる。

DP4 判断力：倫理観と公平・公正の精神をもって、事象を法学と地域創生の視点から考察し、判断することができる。

<思考力・表現力>

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

DP5 思考力：社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するため、地域創生の視点から法的に検討し道筋を立てることができる。

DP6 表現力：他者の意見を尊重したうえで自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

<主体性・協働性>

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

DP7 協働性：地域創生と法的な知識や視点のもとに、多様な背景をもった他者を尊重し協働することができる。

DP8 主体性：課題解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/law.html#policy>）

（概要）

【法学科】

法学部法学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。

2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、キリスト教、キャリアデザイン、英語の学習を必須とする。

<キリスト教科目（自校史を含む）>

・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。

<教養科目・総合科目>

・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における

「人」になる) 教養科目・総合科目を配置する (DP①)。

＜キャリア教育科目＞

- ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する (DP④)。

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力 (スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー) を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する (DP①)。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する (DP①)。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する (DP①)。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する (DP①)。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する (DP①)。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する (DP③)。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する (DP④)。

3 専門科目は、次のように導入科目、専門科目群、演習系科目により体系的に編成する。

＜導入科目＞

- ・ 学部基幹科目として「法学の基礎」と「民法入門」を設置し、法学を学ぶ基礎を身に付けるとともに広範かつ多岐にわたる民法の全体像を学ぶ (DP①-2)。
- ・ 「コース入門」を通じて、専門科目のコース選択に繋げる (DP④-8)。

＜専門科目群＞

- ・ 学部基幹科目として、憲法、民法総則、刑法総論の学修を必須とする (DP①-2)。
- ・ 専門科目群 (「法の基礎」群、「公共と法」群、「市民と社会」群、「犯罪と刑罰」群、「国際社会と法」群、「企業の組織と活動」群、「政治・経済と社会」群、「法学特論科目」群) に、次の3つのコースのコース別科目を編成し、各コースの専門を体系的に学ぶ (DP①-2、DP③-5)。

【司法コース】

- ・ 法曹 (裁判官・検察官・弁護士) 資格の取得を目指す法科大学院への進学や、司法書士・行政書士などの資格取得を目指して、法律学全般にわたる専門知識を修得する。

【行政コース】

- ・ 国・自治体の職員や警察官、消防士などを目指して、行政法や刑法などの分野の科目を中心に履修し、公務員に必要な法的知識を修得する。

【企業コース】

- ・ 主に民間企業で活躍する職業人を目指して、経済的側面も含めて、社会の制度や仕組みに関する分野の科目を履修し、複雑化した社会で活躍する職業人に必要な法的知識を修得する。

＜演習系科目＞

- ・ゼミナールを含む演習系科目での主体的かつ能動的な学習により法学に関する理解を深める（DP①-2、DP④-7）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①-1＜知識＞・DP①-2＜教養・専門性＞

- ・社会における課題や事例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育み、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養及び法学に関する基本的な専門知識と技能を培う。
- ・複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。

DP②-3＜寛容性＞・DP②-4＜判断力＞

- ・フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。
- ・アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を法学の視点から考察し判断するための能力を培う。

DP③-5＜思考力＞・DP③-6＜表現力＞

- ・ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するため、法的に検討し道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信するための能力を培う。

DP④-7＜協働性＞・DP④-8＜主体性＞

- ・幅広い教養及び専門科目における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- ・社会をフィールドとしたPBLやサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- ・講義において、当該科目の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- ・ICTを積極的に活用し、LMS（Learning Management System）を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する意欲と習慣を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

【地域創生学科】

法学部地域創生学科は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲

げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断の努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。

2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、キリスト教、キャリアデザイン、英語の学習を必須とする。

＜キリスト教科目（自校史を含む）＞

- ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。

＜教養科目・総合科目＞

- ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。

＜キャリア教育科目＞

- ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP①）。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP①）。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP④）。

3 専門科目は、次のように学部基幹科目、専門科目群、演習系科目で体系的に編成する。

＜学部基幹科目＞

- ・ 法学を学ぼうえでの基幹をなす法学の基礎、民法入門、憲法、民法総則、刑法総論を選択必修科目とし、法学を学ぶ基礎を身に付ける（DP①-2）。

＜専門科目群＞

- ・ 専門科目群（地域創生基礎科目群、地域デザイン科目群、地域安全科目群、地域創生特論科目群、法律科目群）に2つのコースの専門選択必修科目を編成し、各コースの

専門を体系的に学ぶ（DP①-1、DP①-2、DP③-5）。

【地域デザインコース】

- ・ 地方公務員（行政職）、地域に根差した NPO の職員、地域自治活動リーダーになることや、地域に貢献する企業で活躍することを目指し、地域の諸課題を解決に導き、魅力ある地域づくりを担うのに必要な専門知識を身に付ける。

【地域安全コース】

- ・ 警察官・消防士等の公務員、防災関連企業や NPO の防災リーダーとして活躍することを目指し、安全・安心な地域社会を創り出していくのに必要な専門知識を身に付ける。

＜演習系科目＞

- ・ ゼミナールを含む演習系科目での主体的かつ能動的な学習により法学に関する理解を深める（DP③-5、DP④-7）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①-1＜知識＞・DP①-2＜教養・専門性＞

- ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育み、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養及び法学に関する基本的な専門知識と技能を培う。
- ・ 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。

DP②-3＜寛容性＞・DP②-4＜判断力＞

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。
- ・ アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を法学の視点から考察し判断するための能力を培う。

DP③-5＜思考力＞・DP③-6＜表現力＞

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するため、法的に検討し道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信するための能力を培う。

DP④-7＜協働性＞・DP④-8＜主体性＞

- ・ 幅広い教養及び専門科目における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- ・ 講義において、当該科目の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- ・ ICT を積極的に活用し、LMS（Learning Management System）を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する意欲と習慣を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラム

レベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/law.html#policy ）
（概要） 法学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。 【法学科】 求める学生像 法学部法学科は、国の内外で発生する諸問題の解決に必要な法律知識を涵養し、問題の解決にあたることのできる能力を身に付けた人材を育成することを目的としている。したがって、高校までの学修の中でさまざまな社会問題について関心を抱き、論理的に思考できる素養と問題解決に取り組む意欲を持つ者を求める。 入学者選抜において評価する点 法学部法学科では、基礎的な法律知識を身に付けたうえで、「司法」「行政」「企業」の3つのコースから1つを選択して専門分野をより深く学ぶことを目指した教育課程を構成している。したがって、入学者選抜においては基礎学力を有していると同時に、社会で生起する問題に関心をもち、その解決に取り組む意欲を持って必要な情報を収集し、論理的に思考できる者を求める。 入学前学習として求めること 法学部法学科では、高校での主要教科をバランスよく学んで基礎学力を身に付けると同時に、課外活動やボランティア活動などに積極的に参加して社会との関わりを持つことを求める。これらの学びや活動を通じて得た知識について、各種メディアを利用して補強し、さまざまな価値観の存在を認めつつ自らの意見を表明できる能力を求める。 【地域創生学科】 求める学生像 法学部地域創生学科は、安全で安心して暮らすことのできる地域社会の創造と魅力ある地域づくりを、自助・共助・公助の精神のもとで担うことのできる人材を育成することを目的としている。したがって、高校までの学修の中で地域社会において生起するさまざまな問題について関心を抱き、論理的に思考できる素養と問題解決に取り組む意欲を持つ者を求める。 入学者選抜において評価する点 法学部地域創生学科では、基礎的な法律知識を身に付けたうえで、地域創生に必要な「地域デザイン」と「地域安全」の2つのコースの諸科目をバランスよく学ぶことを目指した教育課程を構成している。したがって、入学者選抜においては基礎学力を有していると同時に、地域社会で生起する問題に関心をもち、その解決に取り組む意欲を持って必要な情報を収集し、論理的に思考できる者を求める。

入学前学習として求めること

法学部地域創生学科では、高校での主要教科をバランスよく学んで基礎学力を身に付けると同時に、課外活動やボランティア活動などに積極的に参加して社会との関わりを持つことを求める。これらの学びや活動を通じて得た知識について、各種メディアを利用して補強し、さまざまな価値観の存在を認めつつ自らの意見を表明できる能力を求める。

学部等名 理工学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html>）

（概要）

理工学部理工学科は、大学の理念に基づき、科学技術に携わるエンジニアとしての清廉さ、実直さ、公共心を備え、社会や人類、地域の幸福と発展に実質的な貢献ができる人材を育成する。

理工学の中心分野である、生命、数物、化学、表面工学、機械、電気、健康、情報、土木という9学系が、協調・協働して教育研究を担うことで、確かな専門性と理学・工学の垣根を越えた幅広い知識・技術を有する職業人を社会に輩出することを目指している。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/science-and-engineering.html#policy>）

※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。

（概要）

【理工学科】

理工学部理工学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に4項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

<知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

DP1 知識・技能：理工系社会人として必要とされる幅広い教養を身につけ、また、各コースの専門分野を深く学ぶことにより専門知識を修得している。

<寛容さ・判断力>

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

DP2 思考・判断力：社会的・文化的背景を踏まえ、自分の果たすべき役割を理解し、論理的な思考と倫理的な認識をもって、事象を判断する力を身につけている。

<思考力・表現力>

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

DP3 問題解決力・表現力：各コース専門分野の知識・技能を活用して、問題を発見し解決するための手法を適切に選択できる。また、専門分野において自らの意見を適切な表現手段を用いて発信するとともに、他者の意見に耳を傾けることができる。

<主体性・協働性>

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

DP4 主体性・協働性：知識・教養・技能を高めようとする意欲を有し、社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を持っている。また、多様な背景をもった他者を尊重して協働しながら、社会に貢献しようとする意欲と態度を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/science-and-engineering.html#policy）
（概要） 理工学部理工学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。 なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。 教育課程・教育内容 1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。 2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、キリスト教、初年次教育、キャリアデザイン、英語の学習を必須とする。 ＜キリスト教科目（自校史を含む）＞ ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。 ＜教養科目・総合科目＞ ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①、DP②）。 ＜キャリア教育科目＞ ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP①、DP③、DP④）。 ＜初年次教育科目＞ ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。 ＜地域志向科目＞ ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。 ＜語学教育科目＞ ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。 ＜海外語学研修科目＞ ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP①）。 ＜情報教育科目＞ ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。 ＜データサイエンス科目＞ ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP①、DP③）。 ＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP④）。

3 専門科目は、次のように専門基幹科目及び専門基礎科目から専門応用科目へと段階的に編成する。

＜専門基幹科目・専門基礎科目＞

- ・ 理工系社会人として必要とされる理工学の基幹・基礎をなす、数学・物理学・化学・生物学・情報科学・地学・環境科目・実験等の各分野の幅広い基礎的な知識や技能を身に付ける（DP①）。
- ・ 各専門分野について、その概要、基本的な概念、考え方、先端科学技術との関わりや意義について、理工学概論（初年次に配置）において学び、社会的・文化的背景を踏まえた思考や判断力を身に付ける（DP②）。
- ・ 専門分野の基礎的な研究方法を体験し、他者と協働しながら、社会に貢献しようとする主体性や協働性を各コースの入門プロジェクト（初年次教育科目）において身に付ける（DP③、DP④）。

＜専門応用科目＞

- ・ 次の7コースを編成する。各コースでは、それぞれの専門分野における基礎的な科目から発展的な科目までを段階的、体系的に編成することで、より深い専門知識を習得するとともに、論理的な思考と倫理的な認識をもって、事象を判断し、社会にあるさまざまな問題を発見、解決する力を身につける（DP①、DP②、DP③）。
- ・ サブプログラム制度を履修することで、専門分野以外の専門知識を習得することができ、自身の専門分野とは異なった視点を持って問題を解決する能力を身につける（DP①、DP②、DP③）。
- ・ 専門教育の集大成である必修科目の卒業研究では、研究の一連の流れを学び、最先端の研究に触れることにより、それぞれの専門分野における専門性を修得することで、問題解決力や表現力を高めるとともに、主体性や協働性を育む（DP③、DP④）。

【生命科学コース】

- ・ 生命科学コースでは、理工系社会人として必要とされる教養を身につけるとともに、生命科学の各分野の基礎から応用まで広い分野を包括的に学ぶ（DP①）。
- ・ 基礎分野、実験分野、理工生命科学・食品・医薬・エコロジー分野、応用化学分野、卒業研究関連分野のみならず、社会的に自分が果たすべき役割を理解し、将来的にさまざまな分野で自ら判断できる力を身につける（DP②）。
- ・ 理工生命科学・食品・医薬・エコロジー分野など、生命科学分野における基礎を土台とした上で、社会課題を解決するための手法を適切に選択し、他者の意見を取り入れながら、自らの意見を適切に表現する力を身につける（DP③）。
- ・ 生命科学の各分野の知識・教養・技能を高め、地域社会の一員として主体的に社会課題に向き合い、他者に働きかけて社会に貢献する意欲を身につける（DP④）。

【数理・物理コース】

- ・ 数理・物理コースでは、自然科学の基礎学問である数学と物理学の2つの学問分野について学び、物事を客観的かつ論理的に理解・分析する能力を養うと共に、社会の多様化と時代の変化に柔軟に対応できる幅広い教養と技能を身に付ける（DP①、DP②）。
- ・ 数学と物理学に関する基盤科目、専門展開科目としての数学系分野・物理系分野・情報系分野の応用科目、さらに卒業研究関連科目で構成する（DP①、DP②、DP③、DP④）。
- ・ 基盤科目では、数理・物理の基幹科目により、基礎力を養成する。
- ・ 専門展開科目では、数学と物理学の密接な関係を理解しながら、本人の適性や将来の方向性に応じた主専攻分野を意識して、数学系、物理系、情報系の3つの専門分野について深く学び、筋道立てて複雑な諸問題を解決すると同時に、答えの一見分からな

い問題に対して最善の解を見つけることができる能力を培う（DP③）。

- ・ 情報系分野では、プログラミングの専門科目により、数理科学的な方法で問題を分析する力を身に付ける（DP①）。

【応用化学コース】

- ・ 応用化学コースでは、化学における実践的な技術者としての基礎力を学ぶとともに主体性、協働性に加えて、社会人として必要な思考・判断能力や問題解決能力を身につける（DP①、DP②、DP③、DP④）。
- ・ 基礎分野と共通分野及び実験分野並びに先端科目分野（材料・エネルギー、医薬品・化粧品・食品、環境）及び表面工学分野、生命科学分野、卒業研究関連分野より構成している（DP①、DP②、DP③、DP④）。
- ・ 基礎分野では、5つの基幹科目を中心に実践的な知識と理解を深め、共通分野では、さらに専門性を深めて実践的な知識を確立する。加えて基礎分野では、社会人力の養成のために、応用化学セミナーで技術者倫理、特許、品質管理等を学び、技術者として活動するうえで必要な手段となる語学力を応用化学英語で身につける（DP①、DP②）。
- ・ 生命科学分野では、生命科学コースの専門応用科目により、他分野への門戸を広げ、より広い視野を養う（DP①、DP③）。
- ・ 表面工学分野では、表面工学コースの専門応用科目により、他分野への門戸を広げ、より広い視野を養う（DP①、DP③）。
- ・ 先端科目分野では、材料・エネルギー、医薬品・化粧品・食品、環境の3つの分野で構成し、各先端分野の実践的な知識を身に付ける（DP①、DP③）。

【表面工学コース】

- ・ 表面工学コースでは、表面工学における実践的な技術者として基礎から応用までを学ぶことで、幅広い教養および固有の専門知識と技能を身に付ける。また、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力も身につける（DP①、DP②）。
- ・ 基礎分野では、実践的な知識と理解を深め、発展分野では、さらに専門性を深めて実践的な知識を確立し、知識・技能を活用し、他者の意見を尊重したうえで問題を発見し解決するための手法を適切に選択することができる（DP③）。
- ・ 技術者倫理・特許・品質管理等を応用化学セミナーで、技術者として活動するうえで必要な手段となる語学力を応用化学英語で、キャリアデザインや問題解決法などを表面工学研究基礎で修得し、他者との協働性や、問題解決力・表現力を身に付ける（DP③、DP④）。
- ・ 社会人力を高めるための長期企業実習 B では、3週間にわたる長期の就業体験を行い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら自己の適性や実力を把握することができる（DP③、DP④）。
- ・ 材料・表面工学研究所には多数の契約企業や協力企業が参画しているので、社会・地域・組織の一員として社会課題の情報を入手しやすく、課題解決に向けて主体的に働きかける力をデザインできる（DP④）。

【先進機械コース】

- ・ 先進機械コースでは、安全安心なものづくりを通して社会に貢献できるエンジニアを目指すために、機械工学全般を広く学ぶ総合機械専攻、自動車を中心に学ぶ自動車専攻、ロボットを中心に学ぶロボティクス専攻の3専攻を設置し、機械系エンジニアとして必要とされる専門知識を深く修得する（DP①）。
- ・ 3専攻横断的に、材料力学分野、機械力学・制御分野、熱力学分野、流体力学分野、機械製作・材料分野、工業デザイン分野、設計・製図分野、実験・実習分野、卒業研究関連分野の幅広い知識および技能を学ぶことで、自分の果たすべき役割を理解し、論理的な思考と倫理的な認識をもって、事象を判断する力を身につける（DP②）。

- ・ 各専攻分野に関連する高度な専門知識を習得し、その分野の知識・技能を活用して問題を解決する能力を身につける（DP③）。
- ・ 実験・実習分野では、企画・設計・製作のプロセスを実践し、CAD、機械設計、機械加工、機械実験、技術文書作成などの技術を習得し、それらの過程で、将来、即戦力となる技術者として活躍できる主体性および他者との協働性を身に付ける（DP④）。

【電気・電子コース】

- ・ 電気・電子コースでは、コース基幹科目（電気・電子専門基礎分野、演習分野、実験分野）、コース発展科目（エネルギーシステム分野、エレクトロニクス分野、情報通信システム分野）、および卒業研究関連科目で構成し、便利で環境にやさしい持続可能な社会を実現するための技術の基礎となる電気・電子・情報・通信工学の専門知識を学ぶ（DP①）。
- ・ コース基幹科目では、電磁気学や回路理論を軸に体系的な基礎力を身に付け、連動する実験科目を通じて問題を分析し解決する能力を養う（DP①、DP③）。
- ・ コース発展科目では、各専門分野における専門知識を深め、社会問題の解決に寄与できる実践的な専門知識を持った人材を育成する（DP①）。
- ・ 卒業研究を通じて、社会や地域が抱える問題を認識し、修得した知識や技術で解決する能力を身に付けるとともに、研究で得られた成果を論理的かつ適切な表現を用いて発信する能力を養う（DP②、DP③、DP④）。

【土木・都市防災コース】

- ・ 土木・都市防災コースでは、我が国の都市生活空間や社会基盤の充実、国土の発展に貢献するための素養を身に付けるため、土木工学に関する基幹基礎科目、基幹発展科目、専門展開科目、実験・実習系科目、卒業研究関連科目により編成する（DP①、DP②、DP③、DP④）。
- ・ 基幹基礎科目では、構造、地盤、水理、測量の各分野における基礎的な事項を学ぶ（DP①）。
- ・ 基幹発展科目では、さらに発展的な内容を学び論理的な思考や判断力を養う。また、3年次を対象として土木工学総論を置き、改めて土木・都市防災についての内容を俯瞰し、主体的・協働的に社会に貢献できるようにする（DP①、DP②、DP④）。
- ・ 専門展開科目では、将来の方向性、本人の適性に応じた主専攻分野を意識した防災系、建設系、環境系の3つの分野について学び、自ら判断できる即戦力技術者としての基盤を身に付ける（DP①、DP②、DP④）。
- ・ 実験・実習系科目では、講義で学んだ基礎知識、基礎技術を深める。加えて、卒業研究の実施を通して、課題や解決手段の発見、解決策を主体的に検討し、他者と協働・調整を行いながら問題を解決する能力を養う（DP②、DP③、DP④）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を

取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③<思考力・表現力【考える】>

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④<主体性・協働性【働きかける】>

- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
 - 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
 - 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
 - 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
 - 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/science-and-engineering.html#policy>）

（概要）

理工学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。

求める学生像

理工学部理工学科では、最先端および現代社会を支える科学技術に興味を持つ学生を対象として、理工学科各コースの基本となる講義と実践的な実験・実習を通して理工学の基礎および応用学問を深く学ぶと同時に、問題の本質を見極め、論理的に分析し、主体的に解決策を見出すための思考力・判断力・創造力と、他者と協働できるコミュニケーション能力を身に付けることにより、持続可能な社会・環境づくりに貢献しうる幅広い知識と高度な技術を修得した、国際社会で活躍できる人間性豊かな人材を育成することを目的とする。この目的に基づき、次のような学生を求める。

【生命科学コース】

- 1 生命科学コースの教育に必要な総合的学力(生物と化学など)を有する。
- 2 生命科学コースでの学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。
- 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。
- 4 理工学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。

【数理・物理コース】

- 1 数理・物理コースの教育に必要な総合的学力(数学Ⅲと物理など)を有する。
- 2 数理・物理コースでの学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。
- 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。
- 4 理工学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。

【応用化学コース】

- 1 応用化学コースの教育に必要な総合的学力(化学基礎と化学など)を有する。
- 2 応用化学コースでの学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。
- 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。
- 4 理工学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。

【表面工学コース】

- 1 表面工学コースの教育に必要な総合的学力(化学基礎と化学など)を有する。
- 2 表面工学コースでの学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。
- 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。
- 4 理工学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。

【先進機械コース】

- 1 先進機械コースの教育に必要な総合的学力(数学Ⅱ・Bと物理など)を有する。
- 2 先進機械コースでの学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。
- 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。
- 4 理工学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。

【電気・電子コース】

- 1 電気・電子コースの教育に必要な総合的学力(数学Ⅱ・Bと物理など)を有する。
- 2 電気・電子コースでの学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。
- 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。
- 4 理工学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。

【土木・都市防災コース】

- 1 土木・都市防災コースの教育に必要な総合的学力(数学Ⅱ・B、物理基礎・物理の力学

分野など)を有する。 2 土木・都市防災コースでの学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。 4 理工学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。 入学者選抜において評価する点 基礎科学である理学と応用科学である工学が融合し、豊かな社会を目指していく学問が理工学である。理工学部理工学科では、理学・工学の垣根を越えて幅広い知識や技術が学べるように1学科制を取っており、人類や社会の幸福に貢献しうる技術者の育成を目指している。理工学を学ぶうえで必要な総合的学力を有し、入学以後、幅広い教養と専門分野の知識や方法論を主体的に身に付け、科学の進展や社会の変化も認識しつつ、次世代社会の創造と持続的発展に貢献するための意欲と明確な目的意識を持つ者を高く評価する。 また、日本国内や外国の4年制大学の2年時修了(見込)者、短期大学卒業(見込)者、高等専門学校卒業(見込)者、および専修学校専門課程修了(見込)者など、大学等の高等教育機関で就学し、本学の理工学部理工学科で就学することに対して、強い意欲と能力を備え、明確な目的意識を持った者も選抜し、すでに修得した知識・技能を活かし、さらに理工学を学ぶことによって理工学に関する様々な事象や問題を探求・解決する能力を自主的・積極的に獲得し、多様な社会に貢献しうる者を高く評価する。 入学前学習として求めること 理工学を学ぶためには基礎学力に加えて、問題の本質を論理的に見出す思考力や判断力が必要であり、また問題解決に向けたアイデアと実現方法を人々に正確にわかりやすく説明・記述できる表現力を望む。理工学部理工学科では、入学前学習として以下を求める。 1 理工学の基礎となる数学・物理・化学・生物など、専門分野に応じた高等学校等の教育機関の主要教科の基礎学力を確実に身に付けている。 2 新聞や本、インターネットなどの各メディアから日常的に進んで教養や知識を学ぶ意欲を有し、論理的な思考や倫理感を持って物事を判断し、正確な言葉でコミュニケーションすることができる。 3 将来的に国際社会で協働できるコミュニケーション力を養うためにも、基礎的な英語力や発信力、また課外活動などにも積極的に取り組める行動力や責任感を有する。

学部等名 情報学部
教育研究上の目的（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html ） （概要） 情報学部情報学科は、情報工学、数理・人工知能、情報メディア、医療・人間情報学の4分野を軸とした研究・教育により、数理・AI・データサイエンスの専門知識を備え、課題解決力を身に付けた人材を育成するとともに、情報学以外の幅広い学問分野の知識と技術を修得し、分野横断的な視野と複眼的思考を身に付けた人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/informatics.html#policy ） ※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。

(概要)

【情報学科】

情報学部情報学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に4項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

<知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

DP1 知識・技能：情報学分野で活躍する社会人として必要とされる幅広い教養を身につけ、また、各コースの専門分野を深く学ぶことにより専門知識を修得している。

<寛容さ・判断力>

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

DP2 寛容さ・判断力：社会的・文化的背景を踏まえ、自分の果たすべき役割を理解し、論理的な思考と倫理的な認識をもって、事象を判断する力を身につけている。

<思考力・表現力>

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

DP3 思考力・表現力：各コース専門分野の知識・技能を活用して、問題を発見し解決するための手法を適切に選択できる。また、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信するとともに、他者の意見に耳を傾けることができる。

<主体性・協働性>

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

DP4 主体性・協働性：知識・教養・技能を高めようとする意欲を有し、社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を持っている。また、多様な背景をもった他者を尊重して協働しながら、社会に貢献しようとする意欲と態度を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/informatics.html#policy>）

(概要)

情報学部情報学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断の努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。

2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、キリスト教、初年次教育、キャリアデザイン、英語の学習を必須とする。

<キリスト教科目（自校史を含む）>

・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を

育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。 <教養科目・総合科目> ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。 <キャリア教育科目> ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。 <初年次教育科目> ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。 <地域志向科目> ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。 <語学教育科目> ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。 <海外語学研修科目> ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。 <情報教育科目> ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。 <データサイエンス科目> ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。 <保健体育科目> ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。 3 専門科目は、次のように専門基礎科目から専門応用科目へと段階的に編成する。特に、社会連携教育を推進し、連携企業・団体による寄付講座を開講し、企業の専門家から最新の技術や知見を学ぶ機会を提供する。また、PBL（Project Based Learning）科目を通じて企業が抱える現実の課題をテーマとした実践的な課題解決に取り組む。さらに、卒業研究の一環として、学部と企業が共同で実施する研究プロジェクトに取り組む、学生が実社会のニーズを反映した研究活動を体験する。 <専門基礎科目> ・ 情報学部で学ぶために必要な情報学、理学、工学の基礎をなす、数学・物理学・化学・生物学・地学・機械・電気・情報・環境・実験等の各分野の基礎を身に付ける（DP①）。 ・ 情報分野は、ICT 基礎、情報と社会、社会連携（寄付講座）、情報工学で構成されており、専門応用科目を学ぶための専門的な基礎を身に付ける。なかでも、社会連携（寄付講座）では、連携企業・団体から講師を招き、実社会における課題や情報学を活用した課題解決方法、情報技術の応用など、企業・団体の実例をもとに講義してもらい、情報学を学ぶことの意義を理解する（DP②）。 <専門応用科目> ・ 専門基礎科目をベースに、基幹科目と発展科目および卒業研究関連科目により編成し、ICT（情報通信技術）の専門性と応用を基盤とし、幅広い社会問題を解決できる情報エンジニアになるために、科学的思考力、技術的实践力を身に付ける（DP③）。 ・ 基幹科目では、情報工学分野とプログラミング分野を軸として体系的な基礎力を身

に付け、連動する社会連携・総合演習・実験・実習により問題解決能力を修得する（DP③）。

- ・ 発展科目では、ネットワークセキュリティ、数理・AI・データサイエンス、IoT、メディア工学、医療・人間情報学の5分野を軸として専門性を磨き、基幹科目と同様に、連動する社会連携・総合演習・実験・実習により、より高度な問題解決能力を修得する（DP③）。
- ・ 社会連携・総合演習・実験・実習では、講義・演習科目で身に付けた知識、スキルを総合演習・実験・実習で体験するだけでなく、PBL科目において企業と連携し、実地調査を行うなど、企業が抱える課題を自ら発見し、情報学を活用することで課題を解決する施策を提案するとともに、アプリケーション開発に取り組むなど、より実践的な課題解決にも取り組む（DP④）。
- ・ 専門教育の集大成である必修科目の卒業研究では、研究の一連の流れを学び、最先端の研究に触れることにより、それぞれの専門分野における専門性を高めるとともに創造性、自主性を育む（DP④）。
- ・ 学修プログラムとして、次の4コースを編成する。各コースでは、それぞれの専門分野における基礎から発展までを基幹科目と発展科目の中から段階的、体系的に編成する（各コースのDPを以下に示す）。

【情報工学コース】

- ・ 情報工学コースでは、情報工学分野とプログラミング分野を軸として体系的な基礎力を身に付けるとともに、情報工学、数理・AI・データサイエンス、ネットワークセキュリティ、IoT、メディア工学、医療・人間情報学の各分野を幅広く学ぶ（DP①）。
- ・ 情報学実験や情報工学総合演習などの実験・実習科目により実践的スキルを身に付ける（DP③）。
- ・ 数理・人工知能コース、情報メディアコース、医療・人間情報学コースの専門性を兼ね備え、様々な問題を発見、解決できる汎用的な課題解決力を修得する（DP③）。

【数理・人工知能コース】

- ・ 数理・人工知能コースでは、知能情報学をベースとし、数値解析、データサイエンス、人工知能、機械学習、オペレーションズ・リサーチについて学び、物事を客観的かつ論理的に理解・分析する能力を養うとともに、社会の多様化と時代の変化に柔軟に対応できる教養と技能を身に付ける（DP①）。
- ・ システム開発演習や情報工学総合演習などの実験・実習科目により実践的スキルを身に付ける（DP③）。
- ・ ロボット制御・IoT・組み込みシステムなどへの応用分野も学び、演習により知能情報学を発展させ社会の諸問題を解決する力を修得する（DP③）。

【情報メディアコース】

- ・ 情報メディアコースでは、メディア工学をベースとしつつWebデザイン、映像コンテンツ制作などの技術を学ぶとともに、様々なメディア技術と業界の歴史、コンテンツビジネス、情報メディアの活用方法など、関連分野の知識についても学ぶ（DP①）。
- ・ ソフトウェア設計やProject Based Learningなどの実験・実習科目により実践的スキルを身に付ける（DP③）。
- ・ 画像処理、XR、スクリプト系言語、生成AI、リコメンドシステム等の理論、技術を社会連携教育に基づくフィールドワークで即戦力となるスキルを身に付ける（DP④）。

【医療・人間情報学コース】

- ・ 医療・人間情報学コースでは、解剖生理学、病態生理学、予防医学、認知科学等を学び、情報学の視点から健康管理、高齢者介護のためのデジタルヘルスケアやヘルステ

ックに関連する技術を修得する（DP①）。

- ・ 医療データ処理、医療データ解析等を学び、医療や人間・脳に関するデータサイエンスの理論、技術を修得する（DP③）。
- ・ 医療・人間情報学基礎実験や医療・人間情報学実験などの実験・実習科目により、健康管理、高齢者介護の現場で活用できる実践的スキルを身に付ける（DP③）。

【全コース共通】

- ・ 情報工学、数理・人工知能、情報メディア、医療・人間情報学の4分野を柱とする学修プログラムのほか、他学部の副専攻科目や理工学部サブプログラムを履修する分野融合型カリキュラムを編成する。分野融合型カリキュラムを通じて、異分野の知識を積極的に習得し、多面的な視点を養う（DP②）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や事例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③＜思考力・表現力【考える】＞

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④＜主体性・協働性【働きかける】＞

- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスラーニング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。

- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。

3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/informatics.html#policy）
（概要） 情報学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。 求める学生像 情報学とは、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達による社会的価値の創造を目的とする学問である。情報学部では、多様な分野を越えて広がる情報を活用することで、現代社会が抱える問題を的確に見極める判断力、問題を論理的に分析する思考力、解決策を主体的に発見するための表現力、さらに、他者と協力しながら課題を解決できるコミュニケーション能力を身に付ける。この目的に基づき、次のような学生を求める。 1 情報学の教育に必要な総合的学力(情報Ⅰや数学Ⅱ・Bなど)を有する。 2 情報学での学修を強く希望し、継続的に努力しようとする固い意志を有する。 3 科学技術に携わる者として、「清廉さ」「実直さ」「公共心」を有する。 4 社会活動を通し、情報学が他者との協調・協力のもとに成り立っていることを理解し、自らの教養・知識・技術を持って多様な人や社会、地域の持続的発展に自主的に貢献したいという意欲を有する。 入学者選抜において評価する点 情報学部では、社会課題の解決に取り組むため、幅広い分野にまたがる情報を扱う知識と技術を身に付けられるよう、①情報工学、②数理・人工知能、③情報メディア、④医療・人間情報学の4コースを提供している。情報学を学ぶために、必要な総合的学力を有し、入学以後、多様な分野に渡って課題解決に必要な知識を主体的に身に付け、科学の進展や社会の変化も認識しつつ、次世代社会の創造と持続的発展に貢献するための意欲と明確な目的意識を持つ者を高く評価する。 また、日本国内や外国の4年制大学の2年次修了(見込)者、短期大学卒業(見込)者、高等専門学校卒業(見込)者、および専修学校専門課程修了(見込)者など、大学等の高等教育機関で就学し、本学の情報学部で就学することに対して、強い意欲と能力を備え、明確な目的意識を持った者も選抜し、すでに修得した知識・技能を活かし、さらに情報学を学ぶことによって情報学に関する様々な事象や問題を探求・解決する能力を自主的・積極的に獲得し、多様な社会に貢献しうる者を高く評価する。 入学前学習として求めること 情報学を学ぶためには基礎学力に加えて、問題の本質を論理的に見出す思考力や判断力が必要であり、また問題解決に向けたアイデアと実現方法を人々に正確にわかりやすく説明・記述できる表現力が望まれる。情報学部では、入学前学習として以下を求める。 1 情報学部の基礎となる数学について、高等学校等での基礎学力を確実に身に付けている。 2 新聞や本、インターネットなどの各メディアから日常的に進んで教養や知識を学ぶ意欲を有し、論理的な思考や倫理感を持って物事を判断し、正確な言葉でコミュニケーションすることができる。

- 3 将来的に国際社会で協働できるコミュニケーション力を養うためにも、基礎的な英語力や発信力、また課外活動などにも積極的に取り組める行動力や責任感を有する。

学部等名 建築・環境学部
教育研究上の目的（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html ）
（概要） 建築・環境学部建築・環境学科は、大学の理念に基づき、建築分野及び環境分野を中心とした専門的な学術の理論と応用、さらに社会的実践の基礎を教授することにより、豊かな教養と高度で専門的な知識や技術を有し、社会が求める諸課題に対して、広い視野から、総合的かつ創造的な取り組みができる職能人、技術者及び研究者を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/architecture-and-environmental-design.html#policy） ※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。
（概要） 【建築・環境学科】 建築・環境学部建築・環境学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に9項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 <知識・技能> 社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。 D P 1 理解力：建築と社会をつなぐことのできる教養を身につけ、建築・環境学の基礎的専門知識に基づいて図面を読み取り、かつ描くことができる。 D P 2 コミュニケーション力：地域社会および国際社会において、建築・環境学の観点から協働できるコミュニケーション力を有している。 <寛容さ・判断力> 社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。 D P 3 共生力：建築を具現化する際に社会的・文化的背景を取り込んだプロセスを計画できる。 D P 4 倫理性：倫理観と公平・公正の精神に基づいて事象を判断し、建築のプロセスに参加できる。 <思考力・表現力> 社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。 D P 5 思考力：建築・環境学の基礎的専門知識に基づいて、発見した問題を解決するための手法を適切に選択できる。 D P 6 表現力：他者の意見を理解した上で、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信できる。

<主体性・協働性>

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

DP7 学習意欲：生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を有する。

DP8 主体性・協働性：社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を持ち、他者を尊重して協働できる。

DP9 奉仕精神：社会の諸問題に対して、建築・環境分野を通じて誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/architecture-and-environmental-design.html#policy>）

（概要）

建築・環境学部建築・環境学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。

2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、キリスト教、初年次教育、キャリアデザイン、英語の学習を必須とする。

<キリスト教科目（自校史を含む）>

- ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。

<教養科目・総合科目>

- ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①、DP②）。

<キャリア教育科目>

- ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP①、DP③、DP④）。

<地域志向科目>

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。

<語学教育科目>

- ・ グローバル社会を生きる人々に対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。

<海外語学研修科目>

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP①）。

<情報教育科目>

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。

<データサイエンス科目>

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP①、DP③）。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP④）。

3 専門科目は、次のように専門基幹科目及び専門基礎科目から専門応用科目へと段階的に編成する。

＜専門基幹科目＞

- ・ 建築・環境学を学ぶうえで、その基幹をなす、数学、物理、化学、生物、情報、環境、実習等の工学関係の基礎を身に付ける（DP①-1～①-2、DP②-3～②-4、DP③-5）。

＜専門基礎科目＞

- ・ 建築・環境学を学ぶうえで、建築設計製図等の専門分野の基礎を身に付ける（DP①-1～①-2、DP②-3～②-4、DP③-5～③-6）。

＜専門応用科目＞

- ・ 次の5つのコースを編成し、各コースの専門知識や技術等を身に付けるとともに、ゼミナール及び卒業研究を4年次の必修とし、各コースの専門学習の総まとめを行う（DP①-1～①-2、DP②-3～②-4、DP③-5～③-6、DP④-7～④-9）。

【建築デザインコース】

- ・ 計画・設計に必要な幅広い基礎的な素養を身に付け、デザイン、構造、材料・施工、環境・設備の4つの分野を総合的・統合的にとらえる能力を培うとともに、社会、地域や建物を実感することや体験することを通じ、自身でそれらを分析し、望ましい建築空間として提案する力を育む。

【建築エンジニアリングコース】

- ・ 様々な材料を用いる建築物の構造計画、構造設計手法、耐震補強の手法、建築物の材料・施工計画、維持管理計画を専門的、かつ総合的に理解する。その上で、耐震性、長寿命化等を十分に考慮した安全な建築物を計画、設計、提案できる能力を育む。

【環境共生デザインコース】

- ・ 建築に関連する環境要素には、熱・光・空気・水・音等があり、これらを調整して快適且つ環境負荷を抑えた建築・設備技術について学び、その技術を応用し、人々が安全で快適な生活が営める建築空間を創造できる幅広い環境共生デザイン能力を育む。

【まちづくりデザインコース】

- ・ 都市環境の中の社会的・建築的課題を抽出し、総合的な観点から実践的に問題解決を図ることができる能力を育む。地域コミュニティの活性化や建築ストック（空き家や既存団地など）の再生・利活用、ランドスケープデザイン、コミュニティデザインなどと密接に連携した「まちづくりデザイン」能力を育む。

【すまいデザインコース】

- ・ 戸建て住宅、集合住宅、年老いてからの生活の器としての老人福祉施設、仕事を併設した住宅等、さまざまな「すまい」の設計方法を学ぶことに加え、ひとつひとつの「すまい」が、街並み＝都市の風景を作り上げていることに配慮できる能力を育む。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会

のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②<寛容さ・判断力【みる】>

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③<思考力・表現力【考える】>

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④<主体性・協働性【働きかける】>

- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。

- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/architecture-and-environmental-design.html#policy>）

（概要）

建築・環境学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。

求める学生像

建築・環境学部建築・環境学科では、建築及びその環境分野を中心とした専門的な学術理論と応用・実践方法を学ぶことで豊かな教養と高度な専門知識や技術を有し、総合的・創造的な広い視野から社会の要求する諸問題に取り組んで行ける人材を育成することを目指している。そのために、建築、都市、すまい、構造、環境共生などの専門分野に強い学修意欲と熱意を持ち、建築・環境分野のさまざまな課題に対し柔軟な思考と他者との協調性のもと、自分の意見を適切な言葉や表現方法で伝える能力を有する学生を求める。

入学者選抜において評価する点

建築・環境学部建築・環境学科では、物理、化学、数学等の専門基幹科目、建築設計製図や建築への導入科目等の専門基礎科目、さらに建築デザイン、建築エンジニアリング、環境共生デザイン、まちづくりデザイン、すまいデザイン各コースでの専門応用科目、加えて専門学修の総括となるゼミナール及び卒業研究へと段階的に建築・環境学を学んでいく。

その学修を進めるうえで必要な、数学・物理・化学・生物・情報・環境などの工学的な基礎学力、歴史・文化・芸術などの広い知識と教養、語学力の素養を確認する。さらに、建築・都市、それを取り巻く社会・地域における諸課題に対して積極的に取り組める意欲、客観的立場からの思考力・協調性、自身の意見を他者に適切に伝える能力等を評価する。

入学前学習として求めること

建築・環境学部建築・環境学科では、高等学校の主要基礎科目である数学、国語、英語の基礎学力を確実に身に付け、加えて物理、化学、生物などの理科系科目、歴史、地理等の人文系科目についても、主体的に学習しておくことが必要となる。また、建築設計製図を始めとする建築・環境学の専門科目を学修する準備として、建物や風景などのスケッチやデッサンを通して描写・表現力を養うこと、実物の建物を訪れて空間を実際に体験し、感じ取ること、都市や地域、建築、すまいやそれを取り巻く社会の諸問題の情報収集と整理・その解決方法の模索、さらにその成果をどのような手法で表現すれば良いのかまでを意識して実践してみることを勧める。

学部等名 人間共生学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html> ）

（概要）

人間共生学部は、大学の理念に基づき、幅広く豊かな教養と、共生という視点から人がよりよく生きるために必要な専門性を身に付け、人と人、人と組織・地域・社会・自然などとの間に横たわる様々な問題を発見し、解決の道筋を導き、他者に共感し、協働して問題解決を実行できる人材を育成することで、21世紀の共生社会のニーズに応えていくことを目指している。

コミュニケーション学科では、多様な文化や価値観を持つ人々と心の通い合う人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけ、共生社会の一員として活躍できる人材を育成する。

共生デザイン学科では、デザインに関する知識と技術を習得し、「デザイン力」、すなわち課題を発見しこれを解決するための方策を構想する力と、その構想をとりまとめ表現する力とを身につけた人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/interhuman-symbiotic-studies.html#policy>）

※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。

（概要）

【コミュニケーション学科】

人間共生学部コミュニケーション学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に12項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

<知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

D P 1 基礎知識：自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。

- D P 2 専門知識：コミュニケーションに関する知識と方法論を修得している。
D P 3 地域社会協調：本学が立地する「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。

<寛容さ・判断力>

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

- D P 4 国際性：国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。
D P 5 倫理観：倫理観と公平・公正の精神を持って、事象を判断することができる。
D P 6 実践性：問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。

<思考力・表現力>

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

- D P 7 思考力：他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。
D P 8 発信力：他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信することができる。
D P 9 継続力：生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を有している。

<主体性・協働性>

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

- D P 10 問題解決力：発見した問題を、解決するための手法を適切に選択できる。
D P 11 主体性：社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を持っている。
D P 12 協働性：豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。

【共生デザイン学科】

人間共生学部共生デザイン学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に12項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

<知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

- D P 1 幅広い教養：多様な文化、自然環境との共生に適応できる、幅広い教養を身に付けている。
D P 2 専門性：共生の時代における広い概念としてのデザインが理解できている。
D P 3 地域理解力：神奈川をはじめとする地域の歴史・文化・風土を背景とした生活の特性を理解している。
D P 4 コミュニケーション力：デザイン表現を活用するなど、様々な社会においても協働できるコミュニケーション力を有している。

<寛容さ・判断力>

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

- D P 5 寛容性：他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、デザインの知識や技

能によって企画を提示できる。 DP 6 倫理観・公平性：共生や環境に関わる倫理観と公平・公正の精神を持って、問題解決のための思考・判断をすることができる。 <思考力・表現力> 社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。 DP 7 課題発見力：課題を発見し解決していく能力を有し、自分の考えを口頭または文章、さらにはデザイン表現を用いて、わかりやすく的確に伝えることができる。 DP 8 傾聴力：生活者の声に耳を傾け、彼らの視点に立った新しい生活提案をすることができる。 <主体性・協働性> 社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。 DP 9 生涯学び続ける意欲：生涯にわたり、デザインを通じた提案の質的向上を目指す意欲を有している。 DP 10 社会連携への主体性：神奈川をはじめとする地域の課題や社会の課題にデザインを通して寄与しようとする意欲をもっている。 DP 11 協働力：社会において他者と協働しながら主体的に課題に取り組む態度を身につけている。 DP 12 社会貢献力：デザインに関わる知識と技術を融合させて、実践的に社会貢献する態度を身につけている。	教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/interhuman-symbiotic-studies.html#policy）
（概要） 【コミュニケーション学科】 人間共生学部コミュニケーション学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。 なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。 教育課程・教育内容 1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。 2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、初年次教育、コンピュータ・リテラシー、キャリアデザイン、キリスト教、英語の学習を必須とする。 <キリスト教科目（自校史を含む）> ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。 <教養科目・総合科目> ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。 <キャリア教育科目> ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。	

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。

- 3 専門科目は、次のように学部基盤科目、プロジェクト科目、学科基礎科目、学科専門科目（メディア・コミュニケーション領域、ビジネス心理・コミュニケーション領域、グローバル・コミュニケーション領域、共生コミュニティ分野及び総合分野）を体系的に編成する。

＜学部基盤科目＞

- ・ 人間共生とコミュニケーション及びデザインとの関連性について理解するとともに、人間共生学部における学習の柱となるプロジェクト科目に関する事前学習及び事後学習を行う（DP①-1、DP③-7、DP④-12）。

＜プロジェクト科目＞

- ・ 学生が各々のプロジェクトを設定し、担当する学科専任教員のもと、学内での学びだけでなく、学内の学びの成果や学外での調査、体験等を有機的に結びつける実践的な学びを行う（DP①-2,3、DP②-4,6、DP③-7,8,9、DP④-10,11,12）。

＜学科基礎科目＞

- ・ 学科専門科目を学ぶうえで、多様な情報を収集し、それらを的確に論理的に表現して伝える基礎的な知識を段階的に学ぶ（DP①-1,2、DP②-4、DP④-10,12）。

＜学科専門科目＞

- ・ メディア・コミュニケーション領域では、さまざまなメディアを利用した表現技術やメディアを通してのジャーナリズムに関する知識に加え、メディア活用に必要な情報リテラシーや情報通信技術に関する知識や技能、情報通信技術を社会基盤や新ビジネスに活かすための知識を身に付ける（DP①-1,2、DP②-5、DP③-7,8、DP④-10）。
- ・ ビジネス心理・コミュニケーション領域では、産業・組織および人間関係における心理を応用したビジネスに関する知識を身に付ける（DP①-2、DP②-4,5,6、DP③-7,8,9、DP④-10,11,12）。
- ・ グローバル・コミュニケーション領域では、コミュニケーションの基礎となる日本語、英語、中国語の言語活用能力と各言語を使用している社会の文化およびホスピタリティ産業に関する知識を身に付ける（DP①-1,2、DP②-4、DP③-7,8,9、DP④-11,12）。

- ・ 共生コミュニティ分野及び総合分野は、コミュニケーション学科及び共生デザイン学科の共通編成とする。共生コミュニティ分野では、人間共生学部を構成するコミュニケーション学科と共生デザイン学科の専門性を融合し、共生時代のコミュニティリーダーの養成を目指す。総合分野では、学生が自ら選択したテーマについて、ゼミナールを通じて課題解決および調査・研究の方法を身に付けると同時に、そのテーマに関する理解を深め、卒業研究を通じてこれまでの学習、特にゼミナールやプロジェクト科目で取り組んだテーマについて、卒業論文等の成果物の制作を通して研究結果や自分自身の考えをまとめる方法を身に付ける（DP①-2、DP③-7,8、DP④-10）。

4 教育課程の体系的性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。
 - DP①＜知識・技能【知る】＞
 - ・ 社会における課題や事例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。
 - DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞
 - ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。
 - DP③＜思考力・表現力【考える】＞
 - ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。
 - DP④＜主体性・協働性【働きかける】＞
 - ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスラーニング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における

到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

【共生デザイン学科】

人間共生学部共生デザイン学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断の努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

- 1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。
- 2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、初年次教育、コンピュータ・リテラシー、キャリアデザイン、キリスト教、英語の学習を必須とする。
 - ＜キリスト教科目（自校史を含む）＞
 - ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。
 - ＜教養科目・総合科目＞
 - ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。
 - ＜キャリア教育科目＞
 - ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。
 - ＜初年次教育科目＞
 - ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。
 - ＜地域志向科目＞
 - ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。
 - ＜語学教育科目＞
 - ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。
 - ＜海外語学研修科目＞
 - ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。
 - ＜情報教育科目＞
 - ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。
 - ＜データサイエンス科目＞
 - ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。
 - ＜保健体育科目＞
 - ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。
- 3 専門科目は、次のように学部基盤科目、プロジェクト科目、学科基礎科目、学科専門

科目（デザイン構想領域、デザイン表現領域、共生コミュニティ分野及び総合分野）を体系的に編成する。

＜学部基盤科目＞

- ・ 人間共生とコミュニケーション及びデザインとの関連性について理解するとともに、人間共生学部における学習の柱となるプロジェクト科目に関する事前学習及び事後学習を行う（DP①-1,2、DP④-11）。

＜プロジェクト科目＞

- ・ 学生が各々のプロジェクトを設定し、担当する学科専任教員のもと、学内での学びだけでなく、学内の学びの成果や学外での調査、体験等を有機的に結びつける実践的な学びを行う（DP①-1～4、DP②-5,6、DP③-7,8、DP④-9～12）。

＜学科基礎科目＞

- ・ 学科専門科目を学ぶうえで、多様な情報を収集し、それらを的確に論理的に表現して伝える基礎的な知識を段階的に学ぶ（DP①-2,3、DP②-5、DP④-11）。

＜学科専門科目＞

- ・ デザイン構想領域では、デザイン文化分野、デザイン企画分野、環境コミュニティデザイン分野における専門的学習を行い、デザインに関する知識や企画立案の手法を身に付ける（DP①-2,3、DP③-7、DP④-10,11）。
- ・ デザイン表現領域では、デザイン表現共通分野、映像表現分野、グラフィック・プロダクトデザイン分野、インテリアデザイン分野における専門的学習を行い、デザイン表現を実践していくうえでの基本的な技法を身に付ける（DP①-1、DP③-7、DP④-9,12）。
- ・ 共生コミュニティ分野及び総合分野は、コミュニケーション学科及び共生デザイン学科の共通編成とする。共生コミュニティ分野では、人間共生学部を構成するコミュニケーション学科と共生デザイン学科の専門性を融合し、共生時代のコミュニティリーダーの養成を目指す（DP①-2,4）。総合分野では、学生が自ら選択したテーマについて、ゼミナールを通じて課題解決および調査・研究の方法を身に付けると同時に、そのテーマに関する理解を深め、卒業研究を通じてこれまでの学習、特にゼミナールやプロジェクト科目で取り組んだテーマについて、卒業論文等の成果物の制作を通して研究結果や自分自身の考えをまとめる方法を身に付ける（DP①-2、DP③-7）。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③＜思考力・表現力【考える】＞

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④＜主体性・協働性【働きかける】＞

- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。

- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/interhuman-symbiotic-studies.html#policy>）

（概要）

人間共生学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。

【コミュニケーション学科】

求める学生像

人間共生学部コミュニケーション学科は、多様な文化や価値観を持つ人々と心を通いあう人間関係を構築するために、コミュニケーション能力を身に付け、共生社会の一員として活躍できる学生を求める。高等学校までに到達する学力のうち、「知識・技能」「思考力・判断力」とともに、積極的に国内外の地域や社会に関心を持ち、社会参加や連携の機会を生かして、能動的に人間関係を構築するための「主体性」を持つ学生を求める。

入学者選抜において評価する点

人間共生学部コミュニケーション学科は、コミュニケーション能力の基礎として、一般入学者選抜や大学入学共通テスト利用選抜において、英語能力を高く評価する。また、総合型選抜では、資格型として、英語、中国語、情報の能力を評価する。

入学前学習として求めること

人間共生学部コミュニケーション学科は、グローバルな視点から、国内外の地域や社会に対して関心を持つために、高等学校までの基礎学力を身に付けたうえで、インターネットや新聞、書籍等のメディアを通して、情報の理解や獲得に努めることを求める。さらに多様な情報を収集し、論理的に整理する機会を積極的に作ることを求める。また、英語や中国語の言語運用能力獲得はコミュニケーションの道具として有効であるため、高等学校

までの学習を継続し、さらに能力を向上することを求める。

【共生デザイン学科】

求める学生像

人間共生学部共生デザイン学科は、多様な生活文化や価値観を尊重及び自然環境を配慮し、「共生を実現するライフスタイルの創造」ができる学生を求める。高等学校までに到達する学力のうち、「知識・技能」「思考力・判断力」とともに、社会において他者と協働しながら「主体的」に課題に取り組む姿勢と、共生のデザインに関わる知識と技術を融合させ、実践的に社会貢献する意欲を持つ学生を求める。

入学者選抜において評価する点

人間共生学部共生デザイン学科では、デザインの基礎となる能力を評価するために、一般入学者選抜では、文系・理系学生を幅広く採用することを考え、国語と数学からの1科目選択を採用している。また、総合型選抜の課題型では、出題された課題に対する取り組みの成果を通じて、論理性、創造性、表現力やプレゼンテーション能力を評価する。

入学前学習として求めること

人間共生学部共生デザイン学科では、高等学校までの基礎学力を身に付けたうえで、社会の諸問題に関心を持ち、有形・無形のデザインを制作・鑑賞する機会を積極的に作ることを求める。それにより、暮らしや地域の課題にデザインを通して、寄与しようとする意欲を高めることを望む。また、高等学校までの学習を継続し、自分の考えを口頭、文章、さらにはデザインを用いて表現するための能力を向上させることを求める。

学部等名 栄養学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html>）

（概要）

栄養学部管理栄養学科は、大学の理念に基づき、健康と栄養と食物に関連する分野を中心に、個人や家族それに地域社会の健康増進と栄養の改善を図り、食生活を中心とした生活環境やQOL（quality of life）の向上に寄与する人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/nutrition.html#policy>

※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。

（概要）

【管理栄養学科】

栄養学部管理栄養学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に8項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

<知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々に対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

DP1 知識・技能：豊かな人間性を具えた栄養の専門家としてQOL（Quality of Life）が維持・向上するために必要な支援を認識できる。

DP2 実践力：栄養の専門家として相互理解を図り、適切な食生活を実践するために必要な栄養学固有の知識と技能を身につけている。

＜寛容さ・判断力＞

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

DP3 寛容さ：栄養の専門家として、他者の人格を擁護・尊重し、地域や社会的・文化的背景を理解したうえで、人々の健康と幸福のために高い志をもって奉仕できる。

DP4 倫理観、公平・公正な判断：管理栄養士等の専門職業人として必要な倫理観と公平・公正の精神を持って、事象を判断することができる。

＜思考力・表現力＞

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

DP5 問題発見・解決力：管理栄養士等の専門職業人として認識した問題を解決するために、安全で質の高い栄養・食事管理の手法を選択できる。

DP6 傾聴と発信：対象者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信し、より効果的に対応できる。

＜主体性・協働性＞

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

DP7 主体性：幅広い教養を身に着けるとともに、栄養の専門職として、また、多職種集団の一員として生涯にわたり成長する意欲を身につけている。

DP8 協働性：管理栄養士等の専門職業人として、他職種と協働するために、専門性を説明できるコミュニケーション力を身に着けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/nutrition.html#policy>

（概要）

栄養学部管理栄養学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

1 教育課程は、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。

2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、初年次教育、コンピュータ・リテラシー、キャリアデザイン、キリスト教、英語の学習を必須とする。

＜キリスト教科目（自校史を含む）＞

・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する(DP①)。

＜教養科目・総合科目＞

・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する(DP①)。

＜キャリア教育科目＞

・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する(DP④)。

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する(DP③)。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する(DP①)。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する(DP①)。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する(DP②)。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する(DP①)。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する(DP③)。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する(DP①)。

3 専門科目は、学部基幹科目、学科基幹科目、学科専門科目（栄養関連専門基礎分野、栄養関連専門分野、総合分野、栄養教諭分野）を体系的・段階的に編成する。

＜学部基幹科目＞

- ・ 導入的科目として配置し、健康・栄養・食物に関する基盤を育む(DP①-2)。

＜学科基幹科目＞

- ・ 専門科目の基幹として、健康と栄養に関する基礎的な説明と食環境に関する今日的な問題点に関する総合的な理解を育む(DP①-2)。

＜学科専門科目＞

- ・ 栄養関連専門基礎分野では、専門分野を学ぶうえで必要な基礎的知識を総合的に学ぶため、基礎理科、社会・環境と健康、人体の構造と機能・疾病の成り立ち、食べ物と健康の4つの分野を配置する(DP①-1,2)。また、学習効果を高めるために実験・実習・演習を配置する(DP②-3,4)。
- ・ 栄養関連専門分野では、基礎及び応用栄養、栄養教育、臨床栄養、公衆栄養、給食経営管理、総合演習、臨地実習の7つの分野を配置する(DP③-5,6)。また、実験・実習・演習を通じて、より実践的な能力の習得を図る(DP④-7,8)。
- ・ 総合分野のゼミナール、卒業研究等の科目を通じて、アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う(DP④-8)。
- ・ 栄養教諭分野では、栄養教諭を目指す学生の児童や生徒に対する正しい食習慣指導力の習得を図る(DP③-6)。

4 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。

DP①＜知識・技能【知る】＞

- ・ 社会における課題や事例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。

DP②<寛容さ・判断力【みる】>

- ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。

DP③<思考力・表現力【考える】>

- ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。

DP④<主体性・協働性【働きかける】>

- ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスラーニング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。

- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/nutrition.html#policy>

（概要）

栄養学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学受け入れの方針を次のように定める。

求める学生像

栄養学部管理栄養学科は、食と栄養の専門家である管理栄養士になることを目指して、「食」「栄養」「健康」に対して強い関心を持ち、栄養学の専門分野を学ぶための基礎となる「生物」や「化学」を理解している人を求める。また、管理栄養士の資格を取得して、科学的根拠に基づいた食、栄養と健康に関する知識を活かし、さまざまなライフステージの人々に対し、健康の保持と増進、疾患の予防と改善、生活の質的向上に貢献できる人を

求める。

入学者選抜において評価する点

栄養学部管理栄養学科では、栄養学の専門分野を主体的に学ぶために必要な化学や生物、コミュニケーションを図るための基礎となる国語や英語に関する理解度を評価する。また、食、栄養と健康に高い関心を持ち、社会が抱える課題とニーズを適切に捉え、問題の解決に必要な基礎的知識と論理的思考力、自らの考えをわかりやすく発信するための表現力を有する人を求める。

入学前学習として求めること

栄養学部管理栄養学科は、栄養学の基礎となる生物と化学に関する基礎的な知識を身に付けていることを求める。また、さまざまな背景を持った他専門職者や栄養指導等における対象者の心情を理解し、尊重しながら職務を円滑に遂行するために、実習科目や課外活動を通じて、コミュニケーション能力と協調性を有していることを求める。

学部等名 教育学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html> ）

（概要）

教育学部こども発達学科は、大学の理念に基づき、こどもの発達を心と身体の両方の視点から、また、人生全体を見据えた生涯発達の観点から理解することを重視し、現代的課題に対応できる実践的支援力を備えた小学校教諭・特別支援学校教諭・幼稚園教諭・保育士を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/education.html#policy> ）

※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。

（概要）

【こども発達学科】

教育学部こども発達学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に13項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

＜知識・技能＞

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

D P 1 幅広い教養：自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。

D P 2 専門分野に関する知識：教育・保育・心理・福祉の観点から、高く総合的な知性を修得している。

D P 3 専門分野に関する技能：教育者・保育者として現代的課題に対応できる、実践的支援力を修得している。

D P 4 地域に関する知識：本学が立地する「神奈川」の歴史・文化・風土等について、教育・保育・心理・福祉の視点をふまえ、その特性を理解している。

D P 5 コミュニケーション力：社会において協働できるコミュニケーション力を有している。

＜寛容さ・判断力＞

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

- DP6 多文化での共生：子どもや家庭、また、地域の教育・保育の社会的・文化的背景を理解したうえで、自分自身の態度や経験を考えることができる。
- DP7 倫理観、公平・公正な判断：倫理観と公平・公正の精神をもつものごとについて考え、教育者・保育者としての適切な判断を行うことができる。

＜思考力・表現力＞

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

- DP8 問題発見・解決力：教育者・保育者としての課題を発見し、それに対応できる解決力を修得している。
- DP9 傾聴と発信：多様な立場・観点からものごとをみつめるとともに、自身の考え・意見を必要な表現手段を用いて効果的に発信することができる。

＜主体性・協働性＞

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

- DP10 生涯学び続ける意欲：生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を有している。
- DP11 社会参加への主体性：教育者・保育者として、社会的な役割と責任とを果たそうとする主体性を有している。
- DP12 チームワーク、他者との協働：教育・保育・心理・福祉を中心とした幅広い知識と視野のもとに、様々な背景を持った他者を尊重して協働できる。
- DP13 建学の精神の実践、奉仕動機：現代的課題について、教育者・保育者として誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/education.html#policy>）

（概要）

教育学部こども発達学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

- 1 教育課程は、小学校教諭・幼稚園教諭の養成を主たる目的として、また、特別支援学校教諭・保育士の養成を目的として、共通科目及び専門科目により体系的に編成する。なお、認定心理士・准学校心理士の資格を得ることができる課程である。
- 2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、初年次教育、コンピュータ・リテラシー、キャリアデザイン、キリスト教、英語の学習を必須とする。

＜キリスト教科目（自校史を含む）＞

- ・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。

＜教養科目・総合科目＞

- ・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。

＜キャリア教育科目＞

- ・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢

献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。 <初年次教育科目> - 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。 <地域志向科目> - 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。 <語学教育科目> - グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。 <海外語学研修科目> - 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。 <情報教育科目> - 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。 <データサイエンス科目> - 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。 <保健体育科目> - 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。 3 専門科目は、次のように学科基幹科目及び学科専門科目（教育・保育分野、心理分野、健康・福祉分野、総合分野、キャリア分野、実習分野）を体系的・段階的に編成する。また、小学校教育コース及び幼児教育コースを設置し、それぞれの専門性及び取得資格に応じた課程を編成する。 <学科基幹科目> - 専門教育の導入並びに総合的な科目、また、学びの中間点における振り返りとその後の学習課題を発見・確認する（DP①-2）。 <学科専門科目> - 教育・保育分野では、教育現場や保育現場の現代の課題について学び、理解を深める（DP①-2、DP③-8）。 - 心理分野では、子ども一人ひとりの適応的な発達を支えることのできる教育者・保育者を養うため、子どもの発達や心理に関する課題を十分に理解し、適切な対処のあり方について学ぶ（DP①-2）。 - 健康・福祉分野では、現代の子どもや家庭を取り巻く社会的な課題について学び、子どもが健康・安全に成長するための支援技術を身につける（DP①-2）。 - 総合分野では、ゼミナールを必修科目として設置し、学生の興味関心のあるテーマについて深く学ぶ（DP①-1、DP③-8、DP④-12）。 - キャリア分野では、段階的に設置されている演習科目を通じて、将来の進路について考え、教育職・保育職に就く者に対して教育・保育の現場では何が求められているかを学ぶ（DP④-10）。 - 実習分野では、1～4年次の全年次で各資格取得のための実習指導及び実習科目をとおして、大学での基礎的な学びと教育・保育現場での学びを効果的に連動、統合させる学びを行う（DP④-11）。 4 教育課程の体系的性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。
--

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。
DP①<知識・技能【知る】>
 - ・ 社会における課題や実例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。DP②<寛容さ・判断力【みる】>
 - ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。DP③<思考力・表現力【考える】>
 - ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。DP④<主体性・協働性【働きかける】>
 - ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。
- 5 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。
- 6 ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。

学習成果の評価

学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。
なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。

- 1 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。
- 2 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。
- 3 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/education.html#policy>）

（概要）

教育学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学受け入れの方針を次のように定める。

求める学生像

教育学部こども発達学科では、以下のような学生を求める。

- 1 尊敬され、信頼される教育者・保育者になることを目指す目的意識と情熱を持っている。
- 2 こどもの発達を、心と身体の両方、そして、人生全体を見据えた人間の生涯発達の観点から捉えることができる。
- 3 文化、芸術、スポーツ、自然、環境などに幅広く関心を持っている。
- 4 こどもをめぐる諸課題について、他者と対話しながら考えていくことができる。

入学者選抜において評価する点

教育学部こども発達学科は、教育者・保育者の育成にあたり、以下の点を評価する。

- 1 教育、保育、心理、健康・福祉、特別支援教育などの専門分野を主体的に学ぶために必要な高等学校段階の基礎学力を有している。
- 2 こどもの発達やこどもをめぐる諸課題について、積極的に関心を持ち、それらに関する自分の考えを論理的に伝えることができる。
- 3 集団の中で主体性、協調性を発揮し、他者とコミュニケーションを図りながら、活動に取り組むことができる。

入学前学習として求めること

教育学部こども発達学科は、以下のようなことを入学前学習として求める。

- 1 高等学校段階の基礎学力及び文章の読解力、論理力を身に付ける。
- 2 こどもの発達、文化、芸術、スポーツ、自然、環境など、幅広く様々な事柄に関心を持ち、視野を広げる。
- 3 高等学校等の行事やボランティア活動など、様々な人と関わる活動に積極的に参加する。

学部等名 看護学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html> ）

（概要）

看護学部看護学科は、大学の理念に基づき、21世紀の保健医療福祉領域における看護専門職としての社会的使命を自覚して人びとの健康と **well-being** に貢献する人材を育成する。そのために、豊かな人間性を培い、学生一人ひとりに向き合う対話型の教育、少人数教育、経験学習重視の教育によって学生の個性と知性を磨き、看護専門職として主体的に自立して専門性を発揮するための看護実践知、さらに多種間で協働し地域社会と連携するための能力を育む。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/nurising.html#policy> ）

※ホームページでは、学位授与方針をイメージ化した内容で掲載しています。

（概要）

【看護学科】

看護学部看護学科は、教育研究上の目的に基づき、本学が掲げる4つの能力領域の下に6項目の能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

<知識・技能>

社会のさまざまな事象やその背景を体系的に理解するとともに、社会課題を取り巻く人々と対話し相互理解を図るための幅広い教養および各学問領域固有の知識と技能を身につけている。

DP1 人々の多様な健康課題・発達課題に対し、解決できる基礎的知識と技術を身につけている。

＜寛容さ・判断力＞

社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を複雑な社会、多様な文化の中に位置づけて客体化し、倫理観と公平・公正の精神をもって事象を判断する力を身につけている。

DP 2 人々の尊厳と権利を擁護するための看護倫理観に基づいた判断や行動ができる力を身につけている。

DP 3 神奈川をはじめとする地域、社会・文化的背景を踏まえて自己や他者を包括的かつ公平・公正に理解し、尊重できる。

＜思考力・表現力＞

社会課題の解決に向けて、自ら立てた問いを解決するための道筋を立て、他者の意見を尊重したうえで、自らの意見を明確に表現する力を身につけている。

DP 4 探求心と継続的学習の姿勢を備え、論理的思考力および課題解決能力を身につけている。

＜主体性・協働性＞

社会・地域・組織の一員として、社会課題に誠実に向き合い、多様な背景をもった他者を尊重し協働しながら、課題の解決に向けて、主体的に働きかける意欲と態度を有する。

DP 5 看護専門職として、他者を尊重しながら主体的にコミュニケーションをとり、パートナーシップを形成できる。

DP 6 保健医療福祉の多様なケア環境において看護専門職として課題の解決に向けて多職種と協働できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/nurising.html#policy>）

（概要）

看護学部看護学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

なお、本方針は、諸科学の進展や社会の変化、本学に対する社会の要請等を踏まえて、常に内容に改善・改良を加え、教育課程並びに教育指導体制の充実に努める。また、各授業科目は、公開授業や「学習と授業に関するアンケート」などのFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動によって、不断的努力をもってさらなる改善・充実に努める。

教育課程・教育内容

1 教育課程は、校訓「人になれ 奉仕せよ」を具現化できる看護専門職を育成することを主たる目的とし、共通科目、専門基礎科目、専門科目により体系的に編成する。

2 共通科目は、次の科目による編成を基本とし、分野や目的に沿って区分する。なお、キリスト教学、コンピュータ・リテラシー、データサイエンス、キャリアデザインのほか、専門基礎科目、専門科目の基盤となる人間への理解を深めるために、倫理学、心理学、生物学を必修とする。

＜キリスト教科目（自校史を含む）＞

・ 世界と人間に対する深い洞察力を持ち、社会を取り巻く人々と相互理解を図る能力を育むキリスト教科目（自校史を含む）を配置する（DP①）。

＜教養科目・総合科目＞

・ 人間・社会・自然の体系的な理解に基づく豊かな人間性を育む（建学の精神における「人」になる）教養科目・総合科目を配置する（DP①）。

＜キャリア教育科目＞

・ 社会的及び職業的自立を図るための能力を有し、生涯にわたり主体的に学び社会に貢献できる人材を育成すべく、入学直後から実施する体系的なキャリア教育科目を配置する（DP④）。

＜初年次教育科目＞

- ・ 大学で学ぶための基礎力（スタディ・スキルやアカデミック・リテラシー）を養う、高大接続に配慮した初年次教育科目を配置する（DP③）。

＜地域志向科目＞

- ・ 興味・関心、専門分野に応じた学びを通じて、学びのフィールドとなる「地域」に関する理解を育む地域志向科目を配置する（DP①）。

＜語学教育科目＞

- ・ グローバル社会を生きる人々と対話するための言語コミュニケーション能力を育成すべく、英語をはじめとするさまざまな言語を段階的、体系的に学ぶ語学教育科目を配置する（DP①）。

＜海外語学研修科目＞

- ・ 海外での体験的な学びを通じて、語学運用能力と国際社会の中での自己の位置づけを客観視する姿勢を育む海外語学研修科目を配置する（DP②）。

＜情報教育科目＞

- ・ 社会情勢の変化を理解し、社会活動や研究で活用できる「情報」に関するスキルを育成するための情報教育科目を配置する（DP①）。

＜データサイエンス科目＞

- ・ 社会におけるデータの収集・生成に関する判断力や、データを分析し活用する能力を育むデータサイエンス科目を配置する（DP③）。

＜保健体育科目＞

- ・ 生涯にわたって、健康・健全で文化的な生活を送るための基礎を養う保健体育科目を配置する（DP①）。

- 3 専門基礎科目は、看護学分野の学修を支える科目区分であり、人々の多様な健康課題・発達課題を解決する基盤形成のために必要な必修科目である。1、2年次に配置し、人と健康・健康障害と回復の促進、人と環境・健康支援と社会保障制度の2つに区分する。

＜人と健康・健康障害と回復の促進＞

- ・ 医療の現場において求められる的確な判断力と問題解決能力を育成するため、身体の構造と機能、健康と栄養、病態・治療学、臨床心理学、臨床検査などの科目を配置する（DP①-1）。

＜人と環境・健康支援と社会保障制度＞

- ・ 多様なケア環境における調整能力や看護の独自性を発揮できる能力の育成のため、生涯発達学、対人関係論、社会保障制度、保健福祉行政論、公衆衛生などの科目を配置する（DP①-1）。

- 4 専門科目は、看護の対象を生活者として包括的に捉え、健康課題を解決できる能力の習得を目指す構成とする。学びの特徴をふまえ、1・2年次に基礎看護学の科目を配置し、基礎看護学分野で学んだ知識と技術を基盤に1～4年次に生活支援看護学、療養支援看護学、統合看護学を体系的・段階的に編成する。

＜基礎看護学＞

- ・ 健康・人間・環境・看護の4つの視点を元に、看護とは何かを問い続け、理論・概念・哲学を学修し、看護の基盤となる技術と課題解決の方法を修得する。

＜生活支援看護学＞

- ・ 保健医療福祉の現場において対象を生活者として捉えた看護の展開を学修する科目区分であり、「母性看護学」「小児看護学」「老年看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の5つの看護学領域に区分する。
- ・ 保健医療福祉の多様なケア環境において、対象の発達課題、健康レベル、健康課題のとらえ方、地域で暮らす生活者としてのとらえ方や、看護上の目標を達成するための能力、多職種と協働していく能力を修得する。

＜療養支援看護学＞

- ・ 医療の現場において求められる対象との関係形成に基づき、健康障害を持ちながら療養生活を送る対象者の課題解決を支援する能力を修得する。

＜統合看護学＞

- ・ 各分野で学んだ知識と技術を統合し、初年次より看護実践及び研究への志向性を高め、保健医療福祉の多様なケア環境において適切な看護ケアを提供できる看護実践能力を修得する。

これら看護の専門性を学修し、発展させるために、授業科目の構成を大きく「概論」「援助論」「演習」「実習」の段階に分けて展開する。

- ・ 「概論」では、看護実践にかかわる基礎的知識・技術を身につけるために、看護の基礎、看護原論、基礎看護技術Ⅰなどの基礎看護学分野の科目、各看護学概論科目、家族看護学、保健医療福祉連携、災害看護学、看護の統合と実践Ⅰなどの統合看護学科目を配置する（DP①-1）。
 - ・ 「援助論」では、「概論」で学んだ知識を基盤として、科学的・論理的思考力を培うために、各看護学援助論科目を配置する（DP②-2・3）。
 - ・ 「演習」では、「概論」や「援助論」で身につけた知識を基盤として、論理的思考や課題解決能力を養うために看護過程、クリティカルシンキングなどの基礎看護学分野の科目、各看護学演習科目、研究方法論や看護の統合と実践Ⅱ、看護研究などの統合看護学科目を配置する（DP③-4）。
 - ・ 「実習」では、「概論」、「援助論」、「演習」で獲得した能力を基盤として、パートナーシップ形成能力、協働力、自己研鑽能力を培うために実習科目を配置する（DP④-5・6）。
- 5 教育課程の体系性及び系統性をカリキュラムツリーに示す。
 - 6 学位授与方針（DP）に定められた資質・能力の各学年における到達目標を DP ルーブリック（段階的成果目標）に示す。
 - 7 教育課程の構成や各授業科目の履修順序を看護学部教育課程の構成及び履修順序に示す。

教育方法

- 1 自ら問いを立て、視点や価値観の異なる人々と協働し、社会課題の解決に取り組む、多様な形態・方法の「社会連携教育」を通じて、学位授与方針に定める資質・能力を育成する。
 - DP①＜知識・技能【知る】＞
 - ・ 社会における課題や事例の紹介、ゲストスピーカーによる講義などを通じて、社会のさまざまな事象やその背景の体系的な理解を育む。
 - DP②＜寛容さ・判断力【みる】＞
 - ・ フィールドワークやインターンシップなどの社会参加の機会を通じて、社会課題を取り巻く人々の社会的・文化的背景を理解し、他者と共生するための判断力を養う。
 - DP③＜思考力・表現力【考える】＞
 - ・ ディスカッションやプレゼンテーション等の協働による能動的な学びの場を通じて、他者の意見を尊重したうえで、自らの立場、考えをわかりやすく発信する能力を培う。
 - DP④＜主体性・協働性【働きかける】＞
 - ・ 社会をフィールドとした PBL やサービスマーケティング等の課題解決のための実践的な学びを通じて、社会課題に対して誠実に向き合う姿勢や社会参画への主体性を培う。
- 2 講義において、当該分野の知識・技能の習得を図るとともに、読む・書く・話し合う・発表するといった活動を通じて、講義に積極的に参加する姿勢を育む。
- 3 複数クラスを編成する授業において、習熟度別等による少人数教育や授業・活動の複線化によるきめ細かな教育を通じて、教育の個別最適化を図り、学習効果を高める。
- 4 アクティブラーニングによる能動的な思考・判断の繰り返しにより、多様な意見に対

して寛容な精神や公平・公正な判断力を培う。 - 幅広い教養及び専門分野における知識・技能を基に、初年次から段階的に発展するゼミナール等により、多様な背景をもった他者と協働するための規律性と柔軟性を養う。 - ICT を積極的に活用し、LMS (Learning Management System) を通じて、学生の学習状況をモニタリングするとともに、フィードバックや学習支援を行い、学習する習慣と意欲を育む。 - 保健医療福祉の多様なケア環境における臨地実習を通じて、専門職としての責務を果たすために必要な看護実践能力を培う。 学習成果の評価 学位授与方針の達成度を検証するために、学習成果の評価について次のように定める。なお、検証結果は教育課程編成や授業改善等に活用する。 - 学位授与方針に定める資質・能力の達成度を「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」の3つのレベルで把握し評価する。その詳細はアセスメントポリシーに示す。 - 学位授与方針に掲げる資質・能力と各授業科目の対応関係をカリキュラムマップに示す。 - 学位授与方針に照らした授業科目の位置づけと役割を踏まえて、各授業科目における到達目標及び成績評価方法・基準をシラバスに明示し、これに基づく厳格かつ公正、公平な評価を行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/academics/nurising.html#policy ）
（概要） 看護学部は、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を踏まえた上で、全学部共通の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者受け入れの方針を次のように定める。 求める学生像 看護学部看護学科は、多様な健康課題・発達課題を持つ人々の尊厳と権利を擁護するための倫理観を有し、地域の生活環境及びチーム医療において看護専門職として多職種と協働して課題を解決するために、調整能力、科学的・論理的思考力、創造的探究心を持つ人材の育成を目指している。したがって、学生には、自己と他者の価値観や地域・社会・文化的背景を尊重しつつ、主体的に学修し、成長を目指していく姿勢や意欲を持つことを求める。 入学者選抜において評価する点 人の生命と尊厳に関わる看護専門職を目指すには、高い倫理観と生涯にわたり、知識・教養・技術を高めようとする態度が必要である。 そのため、看護学部看護学科では、基礎的学力を有し、人々の保健医療福祉に貢献したいという意欲を持ち、他者を尊重し、関心を寄せ、思いやる心を持って自らコミュニケーションを図り、信頼関係を構築しようとする姿勢や課題に対して誠実に向き合い、公平・公正に事象を捉えようとする態度を評価する。 入学前学習として求めること 看護学部看護学科では、高等学校の主要教科（国語、数学、英語、生物、化学）の基礎学力をバランスよく確実に身に付けておくことを求める。また、課外活動などにも積極的に取り組み、人々に関心を持って関わることで、多様な価値観に触れて広い視野を持つことやコミュニケーション能力を高める重要性を理解し、行動していることを求める。さらに、マスメディアなどから保健医療福祉などに関する情報を得ることや、自ら興味・関心

を持ったテーマに関して探求する積極的 attitude を持っていることなどを求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
国際文化学部	－	15 人	11 人	1 人	0 人	0 人	27 人
社会学部	－	11 人	6 人	1 人	0 人	1 人	19 人
経済学部	－	17 人	9 人	3 人	0 人	0 人	29 人
経営学部	－	17 人	7 人	3 人	0 人	0 人	27 人
法学部	－	21 人	9 人	3 人	0 人	0 人	33 人
理工学部	－	32 人	13 人	3 人	0 人	20 人	68 人
情報学部	－	11 人	2 人	2 人	0 人	7 人	22 人
建築学部	－	12 人	5 人	2 人	0 人	5 人	24 人
人間共生学部	－	13 人	7 人	4 人	0 人	1 人	25 人
栄養学部	－	7 人	4 人	2 人	0 人	0 人	13 人
教育（教員養成以外）学部	－	6 人	8 人	4 人	0 人	1 人	19 人
看護学部	－	7 人	10 人	3 人	7 人	1 人	28 人
その他	－	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人	2 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		880 人					880 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：研究者情報データベース https://kyuin.kanto-gakuin.ac.jp/public/v2kgr/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際文化学部	280 人	321 人	114.6%	1,120 人	1,181 人	105.5%	6 人	8 人
社会学部	195 人	205 人	105.1%	784 人	800 人	102.0%	2 人	1 人
経済学部	355 人	384 人	108.2%	1,426 人	1,522 人	106.7%	3 人	2 人
経営学部	380 人	389 人	102.4%	1,526 人	1,610 人	105.5%	3 人	4 人
法学部	360 人	384 人	106.7%	1,448 人	1,495 人	103.3%	4 人	1 人
理工学部	327 人	387 人	118.4%	1,815 人	1,810 人	99.7%	11 人	3 人
情報学部	160 人	172 人	107.5%	160 人	172 人	107.5%	2 人	0 人
建築・環境学部	138 人	157 人	113.8%	556 人	607 人	109.2%	2 人	1 人
人間共生学部	243 人	264 人	108.6%	980 人	1,034 人	105.5%	4 人	2 人
栄養学部	100 人	108 人	108.0%	400 人	419 人	104.8%	-人	0 人
教育学部	140 人	150 人	107.1%	560 人	570 人	101.8%	-人	0 人
看護学部	80 人	84 人	105.0%	320 人	335 人	104.7%	-人	0 人
合計	2,758 人	3,005 人	109.0%	11,095 人	11,555 人	104.2%	37 人	18 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際文化学部	259 人 (100.0%)	4 人 (1.5%)	222 人 (85.7%)	33 人 (12.7%)
社会学部	179 人 (100.0%)	2 人 (1.1%)	157 人 (87.7%)	20 人 (11.2%)
経済学部	303 人 (100.0%)	1 人 (0.3%)	275 人 (90.8%)	27 人 (8.9%)
経営学部	316 人 (100.0%)	1 人 (0.3%)	298 人 (94.3%)	17 人 (5.4%)
法学部	301 人 (100.0%)	3 人 (1.0%)	276 人 (91.7%)	22 人 (7.3%)
理工学部	358 人 (100.0%)	55 人 (15.4%)	285 人 (79.6%)	18 人 (5.0%)
建築・環境学部	120 人 (100.0%)	27 人 (22.5%)	86 人 (71.7%)	7 人 (5.8%)
人間共生学部	235 人 (100.0%)	2 人 (0.9%)	207 人 (88.1%)	26 人 (11.1%)
栄養学部	86 人 (100.0%)	1 人 (1.2%)	76 人 (88.4%)	9 人 (10.5%)
教育学部	140 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	138 人 (98.6%)	2 人 (1.4%)
看護学部	77 人 (100.0%)	2 人 (2.6%)	70 人 (90.9%)	5 人 (6.5%)
合計	2,374 人 (100.0%)	98 人 (4.1%)	2,090 人 (88.0%)	186 人 (7.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) - すべての授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、学習課題（予習・復習）、その他の事項を記載した授業計画（シラバス）を作成し、大学ホームページで公表している。 - 授業計画は前年度の12月～1月に作成し、年度開始時に公表する。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) ・学期中における理解度を把握するための小テスト及び学期末試験等を用いて、幅広い教養力や専門分野及び地域に関する知識・理解力を評価する。 ・レポートや論文・プレゼンテーションの成果に基づき、ルーブリックやポートフォリオ等の手法を用いて、建学の精神の実践・奉仕力、問題発見・思考力、倫理観、公平・公正な判断、協働力を評価する。 ・「学習と授業に関するアンケート」を実施し、各授業の到達度に関する設問の回答結果を通じて、学習成果の評価を図る。 ・各授業科目の成績を GP (グレード・ポイント) に換算して、履修した科目 1 単位あたりの成績を数値で示した GPA を導入し、学生自らが学業成績の状況を的確に把握するため、学生個人に配付する成績表に記載している。GPA は、秀 (S) を 4、優 (A) を 3、良 (B) を 2、可 (C) を 1、不可 (F) を 0 という GP (グレード・ポイント) に置き換え、算出している。 ・全ての学部において、学位授与方針 (ディプロマポリシー) を定め、大学ホームページで公表している。また、学位授与方針に定められた 1 つ 1 つの能力に対し、学生がどのように身につけていったらよいか、授業内容・方法及び学習支援を含めた教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) を定めるとともに、学生が体系的に学修するために、学位授与方針と各授業科目の関係を示したカリキュラム・マップ (フローチャート型) を提示している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際文化学部	英語文化学科	124 単位	有・無	単位
	比較文化学科	124 単位	有・無	単位
	国際文化学科	124 単位	有・無	単位
社会学部	現代社会学科	124 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
法学部	法学科	124 単位	有・無	単位
	地域創生学科	124 単位	有・無	単位
理工学部	理工学科	124 単位	有・無	単位
情報学部	情報学科	124 単位	有・無	単位
建築・環境学部	建築・環境学科	124 単位	有・無	単位
人間共生学部	コミュニケーション学科	124 単位	有・無	単位
	共生デザイン学科	124 単位	有・無	単位
栄養学部	管理栄養学科	124 単位	有・無	単位
教育学部	こども発達学科	124 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: 関東学院大学公式ホームページ (<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/campus-facilities/campus.html>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
国際文化 学部	国際文化学科	795,000 円	200,000 円	317,660 円	2026 年度 (1 年生)
		795,000 円		313,000 円	2025～2023 年度 (2～4 年生)
	英語文化学科・ 比較文化学科	770,000 円		283,000 円	2022～2020 年度 (留年生)
		770,000 円		277,000 円	2019 年度 (留年生)
社会学部	現代社会学科	795,000 円	200,000 円	316,660 円	2026 年度 (1 年生)
		795,000 円		312,000 円	2025～2023 年度 (2～4 年生)
		770,000 円		280,000 円	2022～2020 年度 (留年生)
経済学部	経済学科	795,000 円	200,000 円	307,660 円	2026 年度 (1 年生)
		795,000 円		299,000 円	2025～2023 年度 (2～4 年生)
		770,000 円		269,000 円	2022・2021 年度 (留年生)
		770,000 円		268,500 円	2020・2019 年度 (留年生)
経営学部	経営学科	870,000 円	200,000 円	307,660 円	2026 年度 (1 年生)
		870,000 円		299,000 円	2025～2023 年度 (2～4 年生)
		770,000 円		269,000 円	2022・2021 年度 (留年生)
		770,000 円		268,500 円	2020・2019 年度 (留年生)
法学部	法学科・地域創 生学科	870,000 円	200,000 円	313,660 円	2026 年度 (1 年生)
		870,000 円		309,000 円	2025・2024 年度 (2～3 年生)
		870,000 円		310,000 円	2023 年度 (4 年生)
		770,000 円		280,000 円	2022～2018 年度 (留年生)
理工学部	理工学科	975,000 円	200,000 円	474,660 円	2026 年度 (1 年生)
		975,000 円		467,000 円	2025～2023 年度 (2～4 年生)
		950,000 円		437,000 円	2022・2021 年度 (留年生)
		950,000 円		471,000 円	情報ネット・メディアコース 2020 年度 (留年生)
		950,000 円		437,000 円	情報ネット・メディアコース以外 2020～ 2017 年度 (留年生)
情報学部	情報学科	975,000 円	200,000 円	474,660 円	2026 年度 (1 年生)
建築・環 境学部	建築・環境学科	975,000 円	200,000 円	514,660 円	2026 年度 (1 年生)
		975,000 円		507,000 円	2025～2023 年度 (2～4 年生)
		950,000 円		477,000 円	2022～2020 年度 (留年生)
		950,000 円		437,000 円	2019 年度 (留年生)
人間共生 学部	コミュニケーション学科	890,000 円	200,000 円	341,660 円	2026 年度 (1 年生)
		890,000 円		335,000 円	2025 年度 (2 年生)
		890,000 円		365,000 円	2024・2023 年度 (3・4 年生)
		790,000 円		335,000 円	2022・2021 年度 (留年生)
	共生デザイン学科	915,000 円	200,000 円	369,660 円	2026 年度 (1 年生)
		915,000 円		363,000 円	2025～2023 年度 (2～4 年生)
		890,000 円		333,000 円	2022・2021 年度 (留年生)

栄養学部	管理栄養学科	915,000 円	200,000 円	374,660 円	2026 年度（1 年生）
		915,000 円		368,000 円	2025～2023 年度（2～4 年生）
		890,000 円		338,000 円	2022～2020 年度（留年生）
教育学部	こども発達学科	915,000 円	200,000 円	371,660 円	2026 年度（1 年生）
		915,000 円		365,000 円	2025～2023 年度（2～4 年生）
		890,000 円		335,000 円	2022 年度（留年生）
看護学部	看護学科	1,025,000 円	200,000 円	590,660 円	2026 年度（1 年生）
		1,025,000 円		586,000 円	2025～2023 年度（2～4 年生）
		1,000,000 円		556,000 円	2022 年度（留年生）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） ・日本学生支援機構の給付奨学生は授業料等減免額を差し引いた納付金額とし、納入期限も前期分授業料等の徴収を 7/13 まで、後期分授業料の徴収を 1/13 まで猶予している。また、入学前の採用候補者については、入学金のみ入学手続き期限内に納付し、前期分授業料等の納付は 7/13 まで猶予している。 ・推薦型選抜、総合型選抜合格者を対象に、入学前年度 12 月から「入学前準備教育」を実施し、大学での講義に必要な基礎的な知識を高め、入学後の学修へのスムーズな移行を支援している。 ・新入生については、入学時のオリエンテーションで履修ガイダンスを行い、教育課程の目的、授業科目の体系、卒業要件、取得可能な資格、履修登録の方法やスケジュール等について、詳しく説明する。在学生については、毎年春学期および秋学期開始時に成績表を配付し、新たな学期を迎えるに当たり、修学上必要な事項についての説明を行う。 ・教務課窓口では個別相談を随時行っている。また、主に新入生を対象として、教員や学生ボランティアスタッフ（学生メンター）による履修相談を行い、履修要綱や時間割表、シラバスを基に、授業時間割の作成や Web 履修登録システムの操作方法等のアドバイスを受けられる機会を設けている。 ・各学部において、1 年次に履修する新入生導入科目を設置し、今後の大学生活及び学修に必要な基本的知識・能力やスキルを学ぶ。 ・教員によるオフィスアワー制度を設け、時間・場所等についてシラバスに掲載し、授業時間以外の質問や相談に随時対応している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア教育科目＋就職支援センターによる充実したキャリアサポート体制 関東学院大学では、自分の将来や生き方を考えるためキャリア形成を目的とした科目「KGU キャリアデザイン入門 1・2」・「KGU キャリアスタディ」・「KGU キャリアデザイン基礎」・「KGU キャリアデザイン実践」を 1 年次より用意しています。これらの科目では、自分自身や社会を知ることを通じて、正課のカリキュラムの中で将来の自分が進む道を探っていく。 また、関東学院大学では、希望する進路の実現に向けて、1 年次から総合的なサポートを実施している。特に 3 年次からは、就職活動に必要な力を身につけるための就職支援プログラムを実施している。就職活動全体の概要を知るための「就職ガイダンス」や、企業の選び方や情報収集の仕方を学ぶための「各種講座」、実社会での就業を体験する「インターンシップ制度」、そして各企業の人事担当者を招いた「学内企業説明会」を用意しています。また、個別の就職相談では、履歴書やエントリーシートの書き方、さらには模擬面接など、一人ひとりの学生に合わせた支援を実施している。

■ キャリアサポートの流れ

キャリアフロー

関東学院大学では、学生のキャリア形成を支援するために段階的なサポート体制を用意しています。
各学年に応じたキャリア教育科目や支援プログラムを受講し、就職活動に備えていきます。

就職・進学



c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

各キャンパスにカウンセリングセンターを設置し、週 5 日、カウンセラー（公認心理師／臨床心理士）が常駐し、不安や悩みを抱える学生へのカウンセリング及び合理的配慮を必要とする精神障害・発達障害学生への専門的な支援を行っている。利用方法等の詳細を大学のウェブサイトで公開している。<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/campus-life/student-life-support-health-care.html#2>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/about-university/disuclosure.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

（データサイエンス教育関連）

グローバル市場へと展開した現在の産業構造への適応、さらに未来への基盤作りの一環として、「KGU データサイエンス概論」・「KGU データサイエンス演習」を設けています。

この科目は、「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能をもとに、自らの意思でデータを読み、そのデータを説明し、活用できる人材の育成を目的としています。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F114310104650
学校名 (〇〇大学 等)	関東学院大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 関東学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		2,361人（1,372人）人	2,281人（1,299人）人	2,455人（1,436人）人
内 訳	第Ⅰ区分	660人	584人	
	(うち多子世帯)	(130人)	(97人)	
	第Ⅱ区分	313人	328人	
	(うち多子世帯)	(53人)	(53人)	
	第Ⅲ区分	171人	181人	
	(うち多子世帯)	(40人)	(44人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	68人	83人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	264人	210人	
	区分外（多子世帯）	885人	895人	
家計急変による 支援対象者（年間）				15人（3人）人
合計（年間）				2,470人（1,439人）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	40人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	19人	人	人
計	59人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
年間	0人	前半期	後半期
		人	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	一人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	32人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	18人	人	人
GPA等が下位4分の1	273人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	291人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。